

特 III

178

大正  
七  
年  
新  
刊



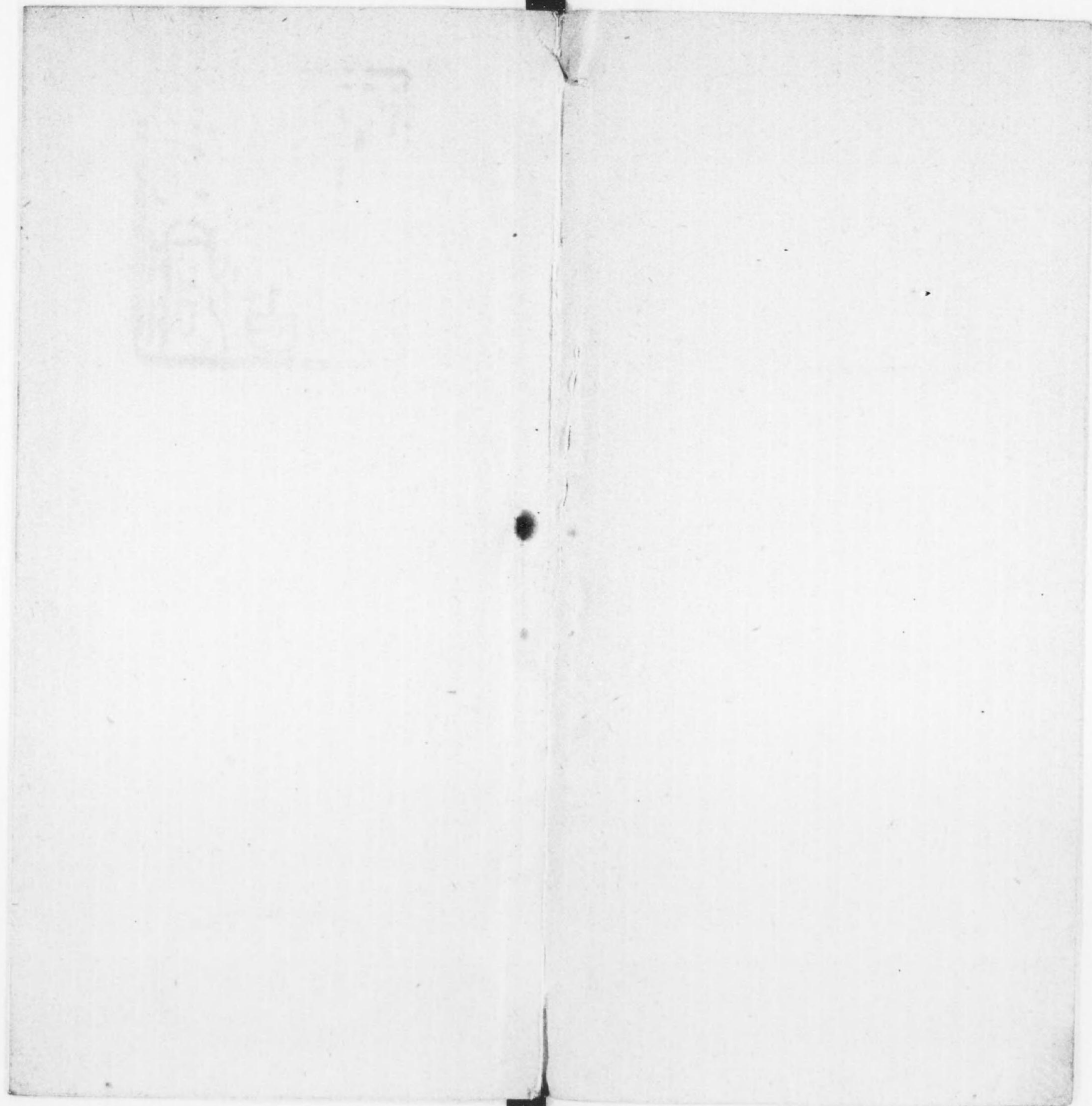
始



特 111

178

京都並大津  
に奈良地方史蹟名所案内記



特川  
178

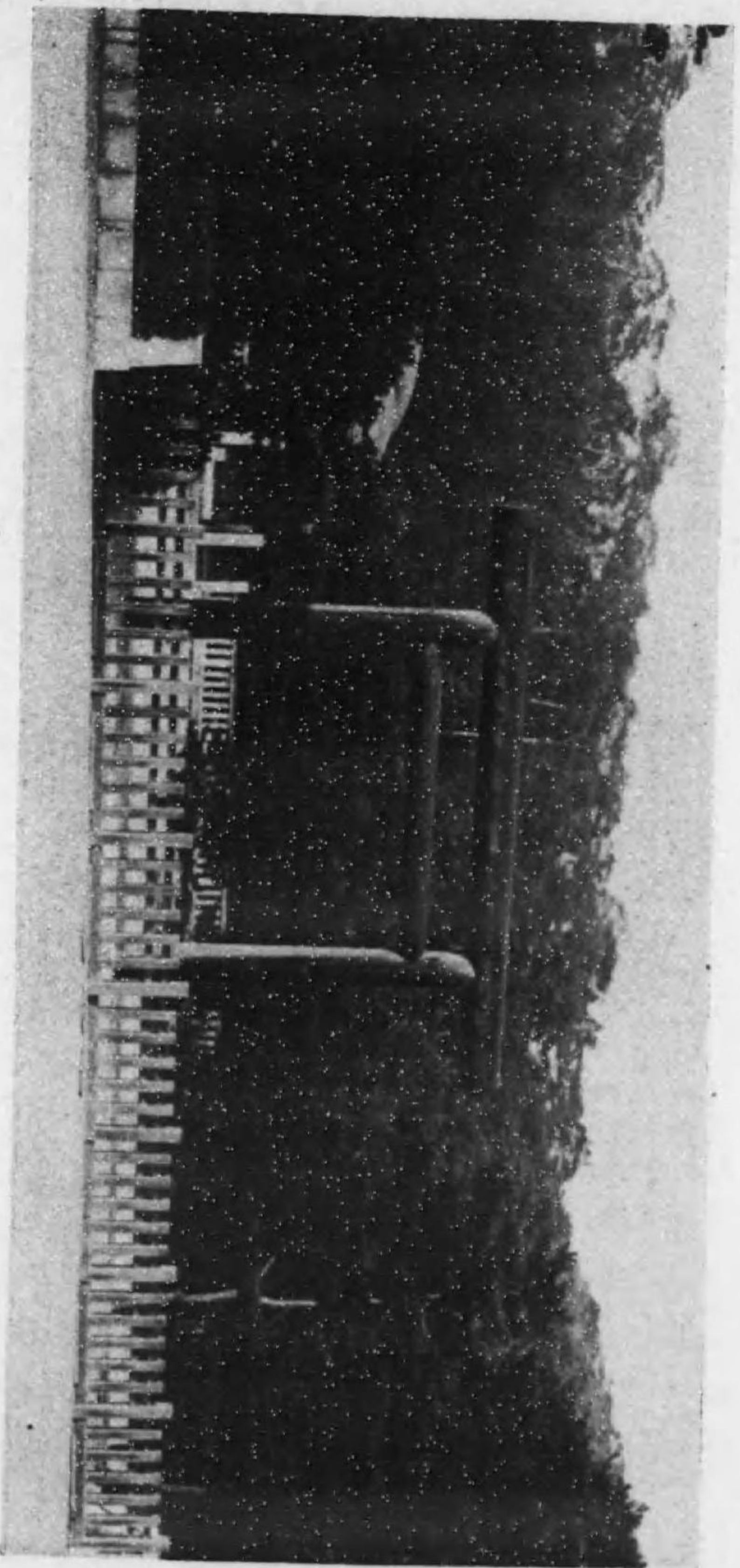


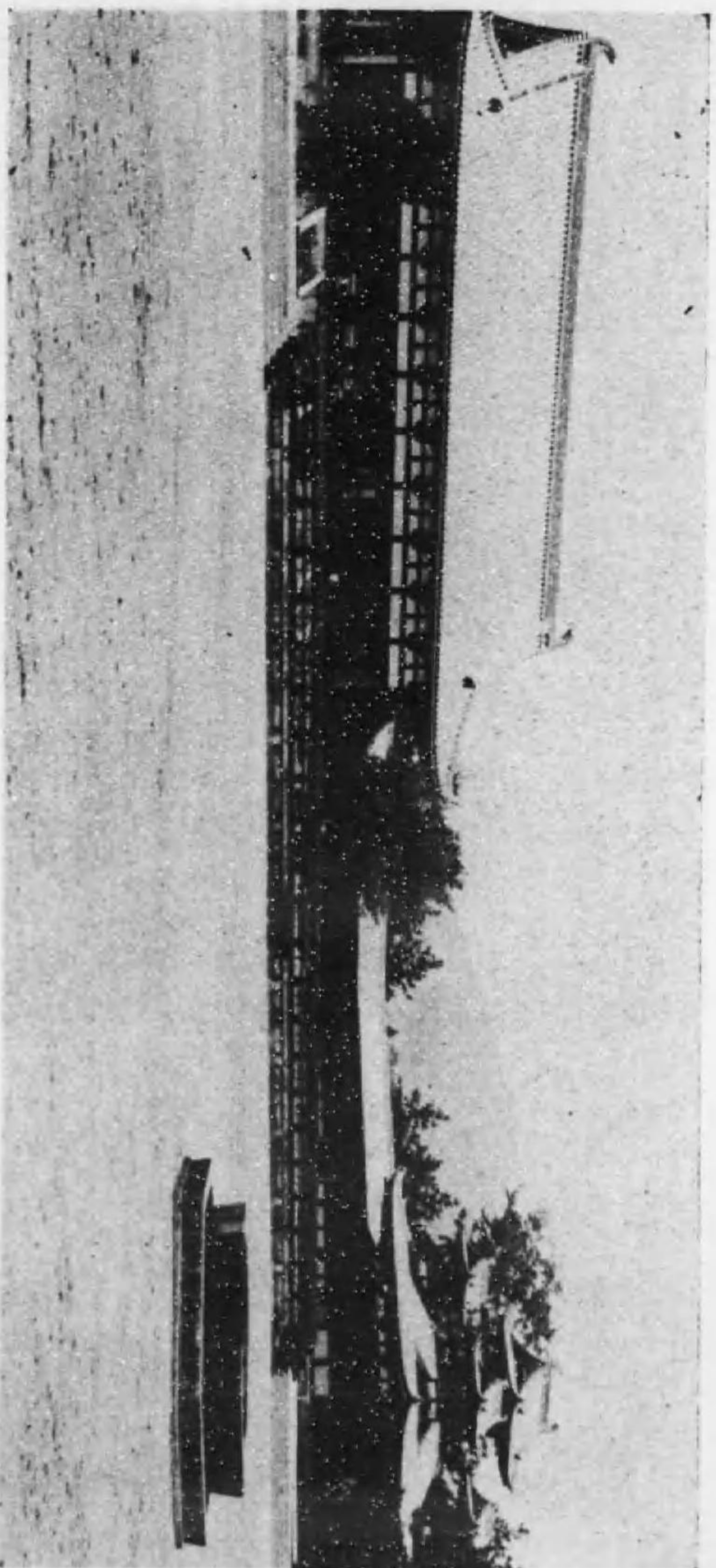
津京都  
長官印  
地方史蹟名所案内記



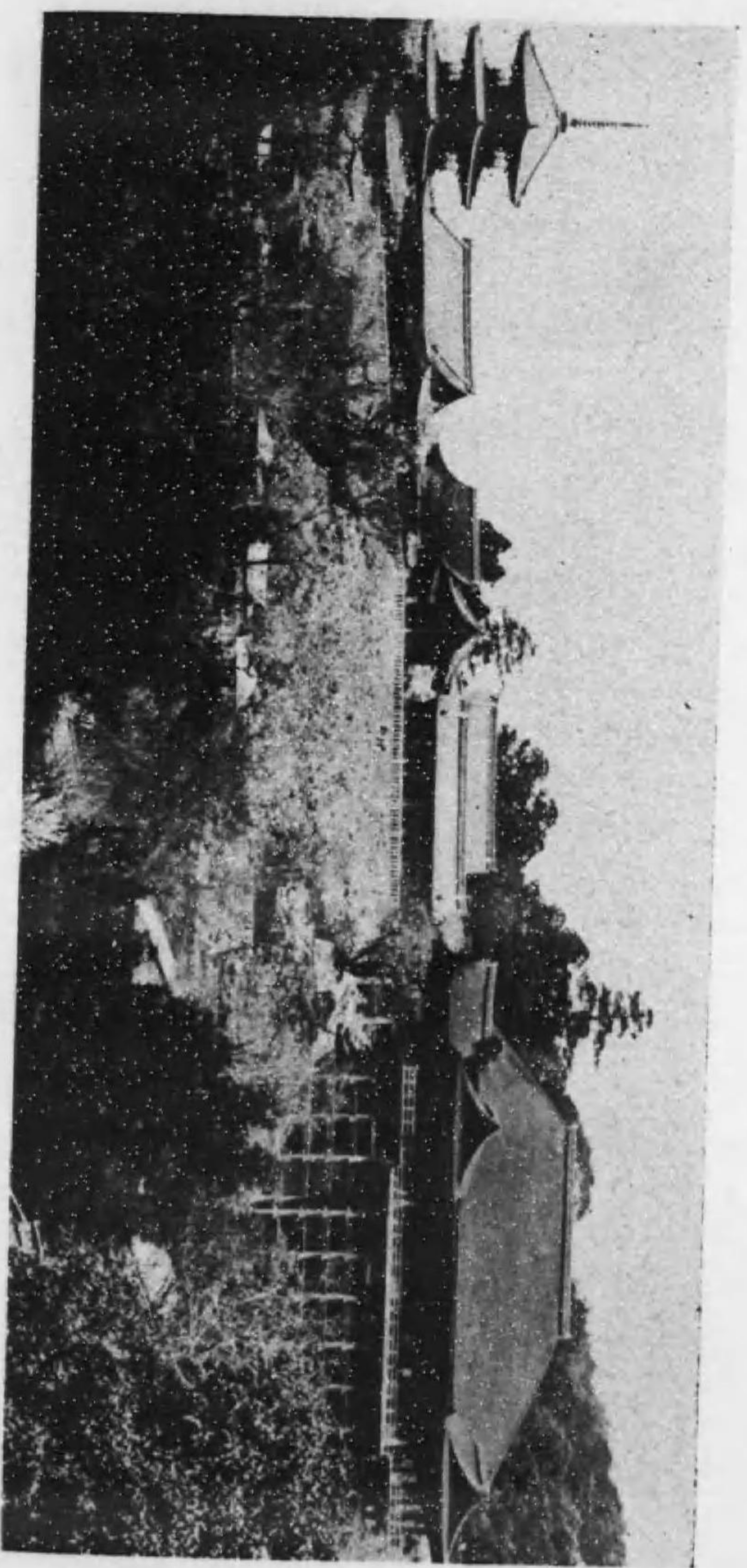
大正  
15. 10. 13  
内交

桃山御陵

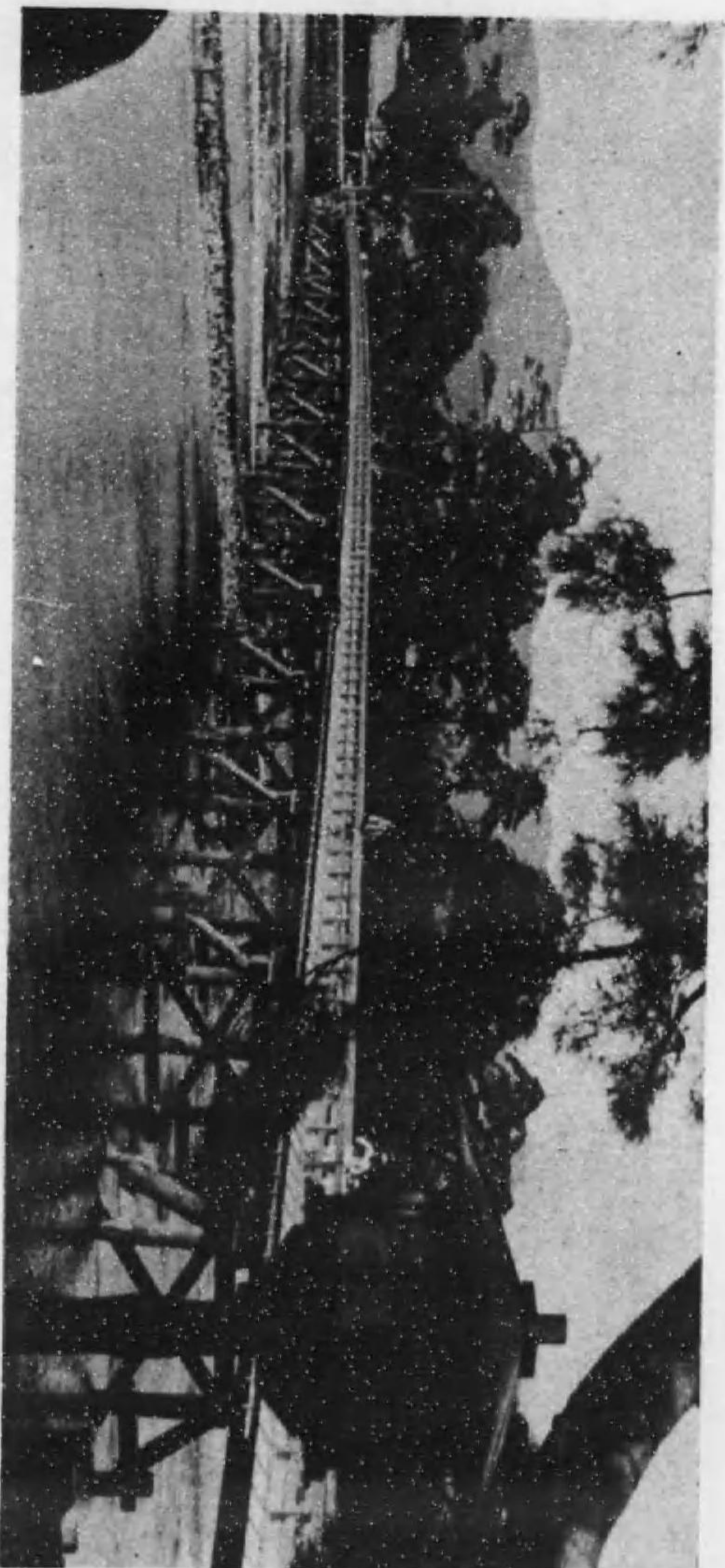




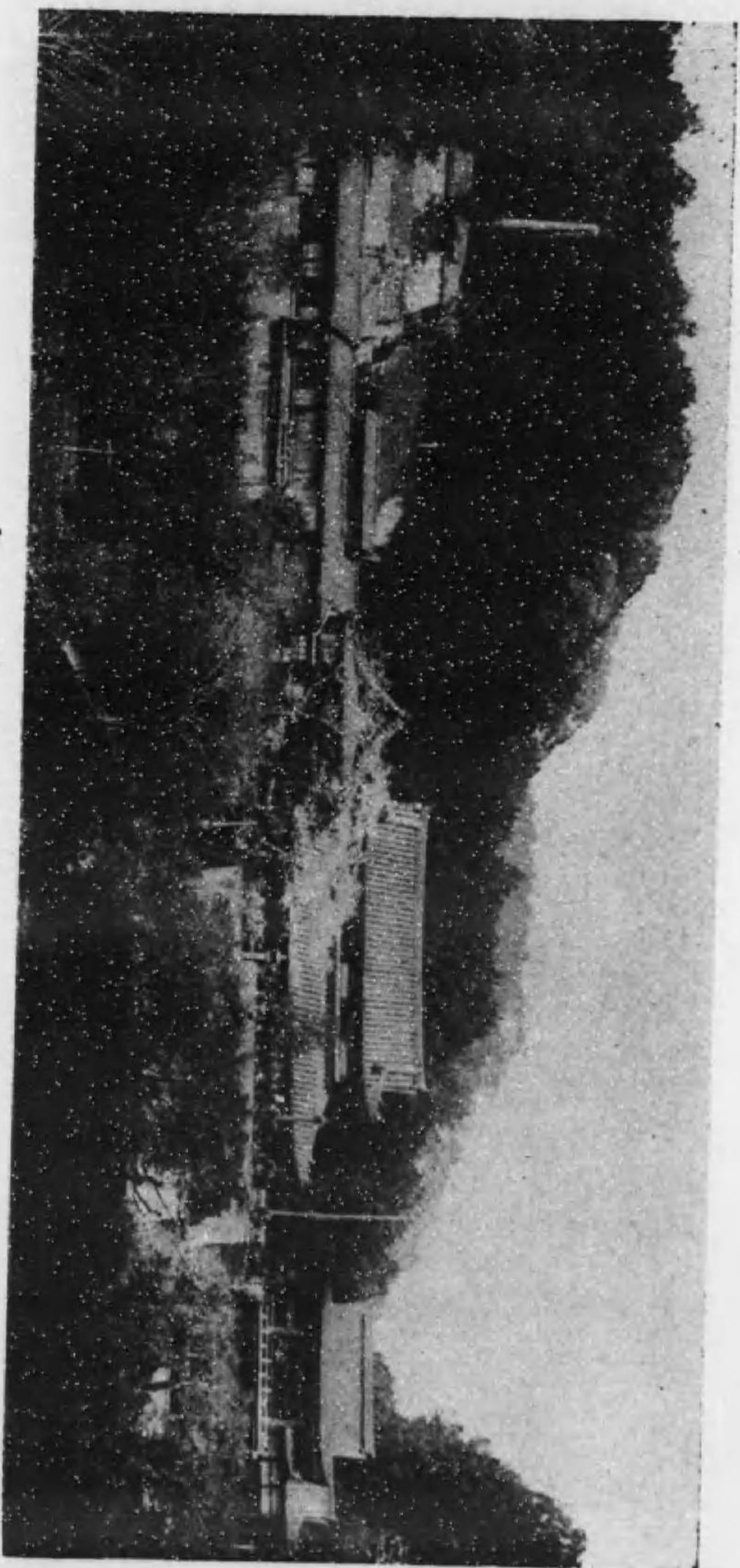
宮 神 安 平



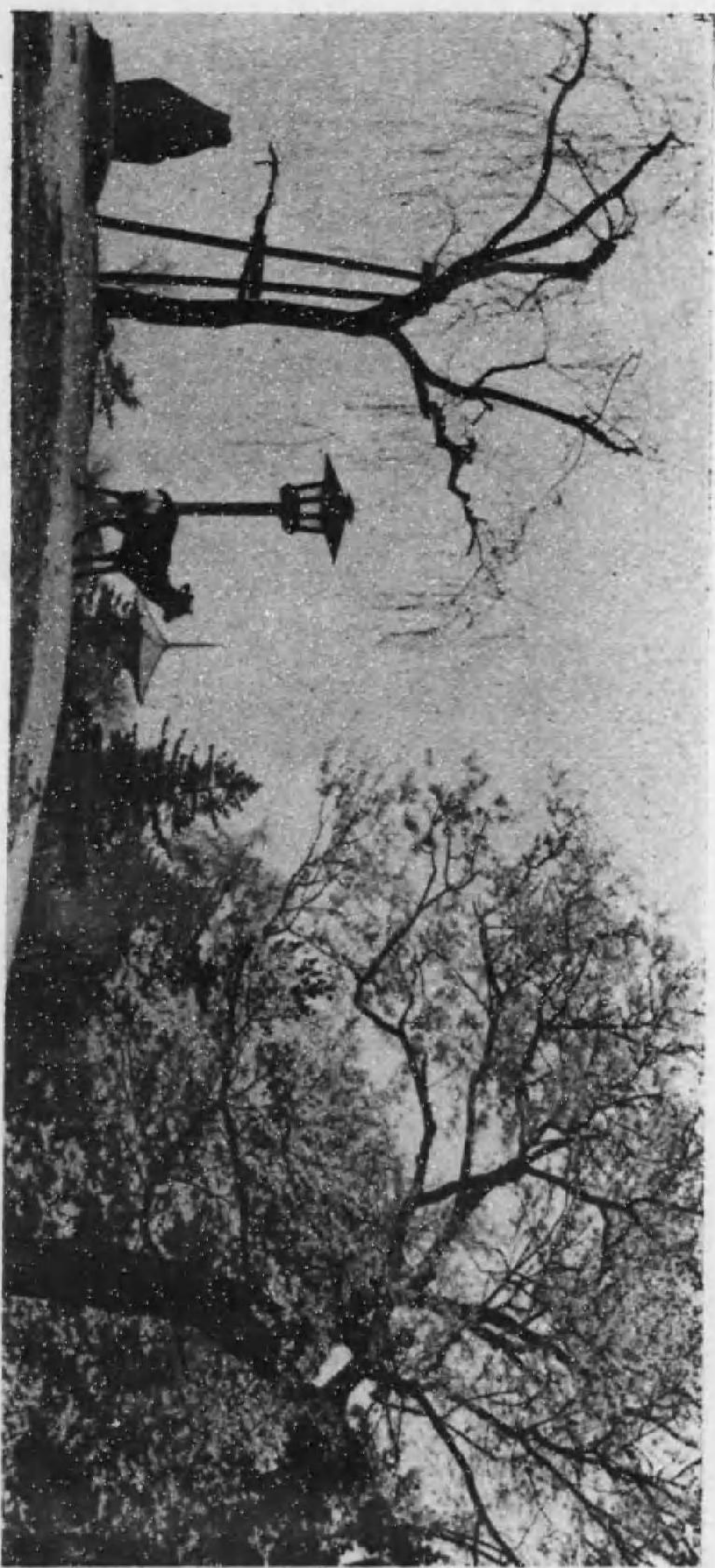
寺 水 清



橋 月 渡 山 嵐



寺 井 三 津 大

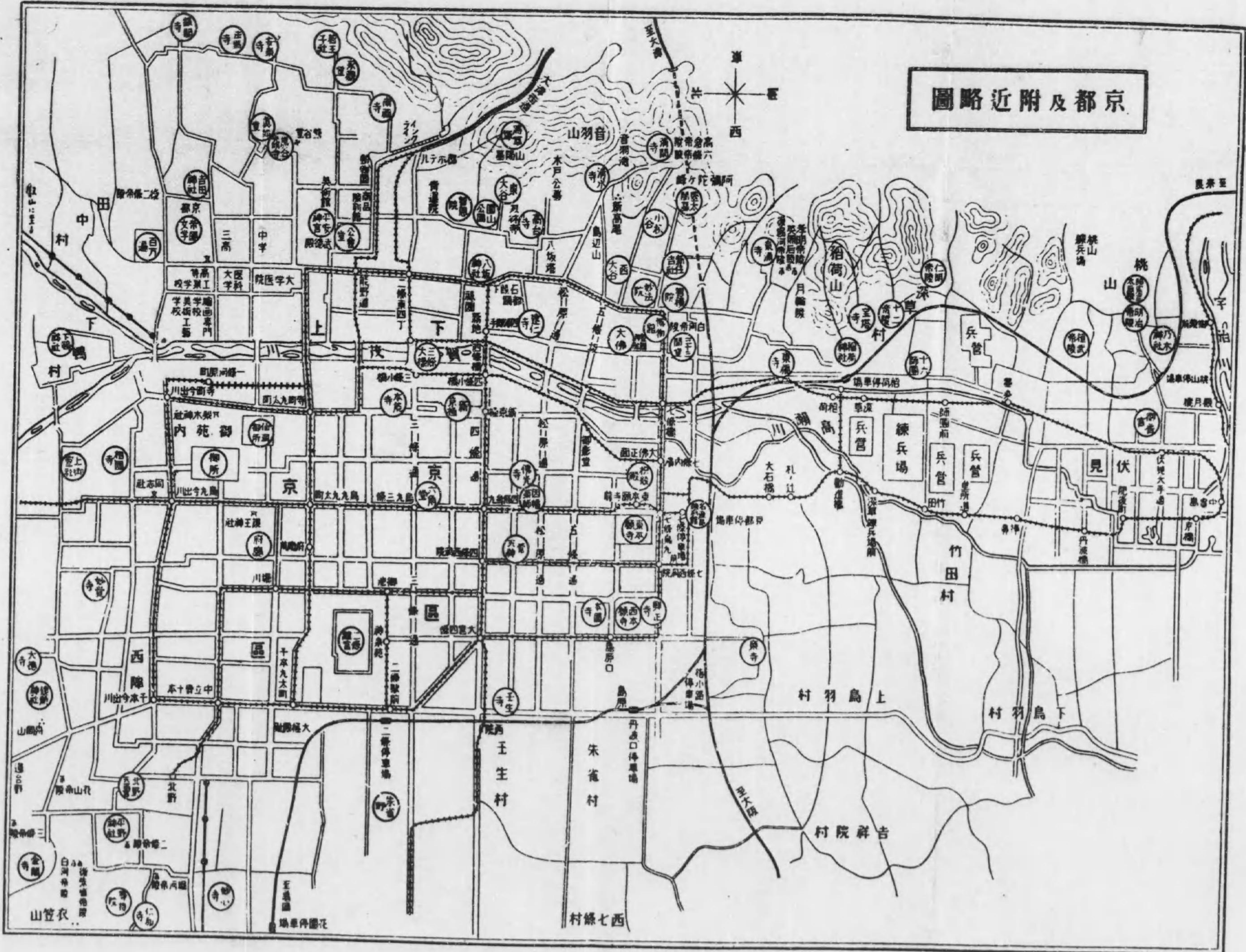


奈 良 公 園 圖





圖略近附及都京



はしがき

京都は山紫水明の地、千百餘年間皇都の地、我が國文化の中心にして幾多の史蹟に富み、宗教に、藝術に、その遺蹟遺品の徴すべきもの隨所に存し、吾人の欽仰すべきもの極めて多し。全國諸學校の修學旅行者、學術妍鑽の士、將又、保養を目的とする旅行家、一たびこの地に於ける神社佛閣、偉人傑士の遺蹟の境に臨めば、誰か感慨無量禁すべからざるものなきを得んや。教育上、慰安上、この地に來往するもの踵を接し、その數、年々に多きを加ふるは洵に喜ぶべき現象と謂ふべし。

1 從來、案内記なきにあらざるも、本書は簡易を旨とし、何人にも一目瞭然その當時を偲ばしめ、眞に旅行者の好伴侶たらんことを期せり。若しそれ、杜撰なる箇所、補充すべき點あら



2 ば、後日改版の日を期してこれを訂正修補する所あるべし。讀者幸にこれを諒せよ。

大正十五年六月

編者識す

### 凡例

1 本書は、京都中央部、洛東、洛北、洛西、洛南、山科、大津、奈良等の方面に大別して記載してある。

一 本書は、なるべく簡便を旨とし口語文で、その地々の史蹟の大要を記してある。

一 本書は、簡便の爲め「イロハ」別に索引を附してある。

一 地圖は、各地共詳細のものがあるから本書には單にその大略を記すこととした。

一 本書の末尾には各所の里程表、電車、汽車に乗る場所を記してある。

目次

第一章	京都概説	一頁
第二章	京都中央部	六
京都	都御所	六
二	條離宮	八
神	泉苑	九
大	極殿址	九
本	能寺	九
三	條大橋	一〇

索引

〔イ〕の部	岩倉公幽居跡	いはくらこういうきよせき	三四頁
	岩倉附近	いはくらふきん	三四
	石清水八幡宮	いはしみづはちまんぐう	八一
	稻荷神社	いなりじんしゃ	七四
	石山寺	いしやまでら	八七
〔ハ〕の部	橋寺の断碑	はしでらのだんび	八〇
〔ニ〕の部			

新	高	五	東	西	妙
京	瀬	條	本	本	法
極	川	大	願	願	院
.....	.....	.....	.....	.....	.....
一〇	一〇	一一	一一	一一	一一

第三章 洛東の部

二	若	二	西	西	仁	法	寶	寶	法
尊	王	條	本	本	和	界	積	積	界
院	寺	離	願	願	寺	寺	寺	寺	寺
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
六七	三一	八	三	三	六〇	四〇	八三	六五	一八

〔ホ〕の部

智	豐	大	豐	西	清	清	八	高	建
積	國	佛	國	大	水	閑	坂	臺	仁
院	社	廟	廟	谷	寺	寺	塔	寺	寺
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一六	一六	一七	一八	一九	二〇	二三	三三	三三	三五

本	平	平	平	等	東	東	東	知	竹
能	安	安	安	持	福	大	大	恩	生
寺	宮	宮	宮	院	寺	寺	寺	院	島
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
九	三	三	三	七	七	九	九	二六	八八

〔ハ〕の部

〔ト〕の部

〔チ〕の部

眞如堂	黒谷	若王寺神社	永観堂	南禪寺	疏水運河	青蓮院	知恩院	圓山公園	八坂神社
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
三	三	三	三	九	九	六	六	六	五

智積院	岡崎公園	大石良雄邸址	若草山	黄蘗山萬福寺	桂離宮	高臺寺	笠置山	上賀茂神社
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
六	三	四〇	九二	七	六八	三三	五	四九

第四章 山科方面の部

岡崎公園	平安神社	武徳殿	聖護院	吉田神社	京都帝國大學	百萬遍知恩院	銀閣寺	大文字山
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
三	三	四	四	五	六	六	七	六

春日神社	吉田神社	大徳寺	大覺寺	大佛	大極殿	醍醐寺	大文字山	高尾神護寺	鷹峰光悦寺
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
九一	三五	四三	六三	七	九	四〇	三六	六六	四八

天智天皇陵……………三九  
 坂上田村麿墓……………三九  
 大石良雄邸址……………四〇  
 醍醐寺……………四〇  
 法界寺……………四〇

第五章 洛北の部……………四一

相國寺……………四一  
 白峰宮……………四二  
 北野神社……………四二  
 平野神社……………四三

高瀬川 たかせがは……………一〇

〔ソ〕の部

相國寺 そうこくじ……………四一  
 疏水運河 そすゐうんが……………二九

〔ナ〕の部

長岡城址 ながなかじやうし……………八四  
 奈良の沿革 ならのえんかく……………八九  
 楠公父子訣別の遺跡 はんこうふしけつ……………八三  
 南禪寺 なんぜんじ……………二九

〔ウ〕の部

宇治川及其附近 うじがは及そのふきん……………九七  
 宇治神社 うじじんしゃ……………八一

大徳寺……………四三  
 建勳神社……………四三  
 金閣寺……………四四  
 等持院……………四七  
 鷹峰光悦寺……………四八  
 下賀茂神社……………四八  
 上賀茂神社……………四九  
 修學院離宮……………四九  
 比叡山延暦寺……………五〇  
 比叡山四明嶽……………五三

〔リ〕の部

乃木神社 のぎじんしゃ……………七六

〔ク〕の部

黒谷 くらだに……………三一  
 鞍馬寺 くらまでら……………三七

〔ヤ〕の部

八坂五重塔 やさかごぢうのたふ……………三三  
 八坂神社 やさかじんしゃ……………三五  
 八瀬 やせ……………五五

〔マ〕の部

圓山公園 まるやまこうえん……………二六  
 松尾神社 まつおじんしゃ……………六七

詩仙堂	松ヶ崎妙泉寺	三宅八幡	岩倉公幽居跡	岩倉附	八千瀬	三光院	寂光院	鞍馬寺	貴船神社
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
五三	五三	五四	五四	五四	五五	五五	五五	五七	五八

松ヶ崎妙泉寺	建仁寺	建勳神社	武徳殿	伏見桃山御陵	廣隆寺	興福寺	興聖寺	五條大橋
まつがさきめうせんじ	けんんにんじ	けんくんじんじや	ぶさくでん	ふしみもやまごりよう	こうりうじ	こうふくじ	こうしやうじ	ごでうおほはし
五三	二五	四五	三四	七四	六一	九〇	八一	二二

第六章 洛西の部

妙心寺	仁和寺	廣隆寺	大覚寺	天龍寺	清涼寺	寶篋院	嵐山	二尊院
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
六〇	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七

高臺寺	永觀堂	手向山八幡宮	天智天皇陵	天龍寺	天王山	粟津	愛宕山	嵐山
こうだいじ	えいくわんだう	たむけやまはちまんぐう	てんちてんわうりよう	てんりうじ	てんわうざん	あはづ	あたごやま	あらしやま
三三	三三	三二	三九	三三	三三	三七	三九	三六



松尾神社……………七  
 桂離宮……………六  
 高尾神護寺……………六  
 愛宕山……………六

第七章 洛南の部……………七

東寺……………七  
 泉涌寺……………七  
 東福寺……………七  
 稻荷神社……………七  
 伏見桃山御陵……………七

〔サ〕の部

坂上田村麿墓 まかのへのたむら……………三九  
 三條通 さんでうごほり……………八九  
 三條大橋 さんでうおほはし……………一〇  
 三十三間堂 さんじふさんげんだう……………一四  
 三千院 さんぜんゐん……………一五

〔キ〕の部

清水寺 きよみづでら……………二〇  
 京都博物館 きやうきほくぶつくわん……………一五  
 京都御所 きやうきごしよ……………六  
 京都帝國大學 きやうきていこくだいがく……………三六  
 北野神社 きたのじんしや……………四三

乃木神社……………六  
 黄蘗山萬福寺……………七  
 平等院……………七  
 宇治川及其附近……………七  
 橋寺の斷碑……………八〇  
 興聖寺……………八一  
 宇治神社……………八一  
 石清水八幡宮……………八一  
 天王山……………八二  
 寶積寺……………八三

貴船神社 きぶねじんしや……………三六  
 金閣寺 きんかくじ……………四六  
 銀閣寺 ぎんかくじ……………三七

〔メ〕の部

妙法院 めうほふゐん……………一五  
 妙心寺 めうしんじ……………六〇

〔ミ〕の部

三笠山 みかさやま……………九二  
 三井寺 みんでら……………八七  
 三宅八幡 みやけはちまん……………五  
 耳塚 みみづか……………一五

〔シ〕の部

第八章 近江大津方面の部

楠公父子訣別の遺跡	八三
長岡城址	八四
笠置山	八五
琵琶湖	八六
瀬田唐橋	八七
粟津	八七
三井寺	八七
石山寺	八七
竹生島	八八

白峰宮	しらみねぐう	三三
寂光院	じやくくわうゐん	三六
聖護院	しやうごゐん	三四
修學院離宮	しうがくゐんりきう	四九
詩仙堂	しせんだう	三三
下賀茂神社	しもがもじんしゃ	四八
眞如堂	しんによだう	三三
新京極	しんきやうごく	一〇
神泉苑	しんせんゑん	九
琵琶湖	びはこ	八六
東本願寺	ひがしほんぐわんじ	二

〔七〕の部

第九章 奈良の部

奈良の沿革	八九
三條通	八九
興福寺	九〇
春日神社	九一
三笠山	九二
若草山	九二
手向山八幡宮	九三
東大寺	九三

平野神社	ひらのじんしゃ	四三
百萬遍知恩院	ひやくまんべんちゐん	三六
比叡山延暦寺	ひえいざんえんりやくじ	五〇
比叡山四明嶽	ひえいざんしめいがだけ	三三
〔七〕の部		
清凉寺	せいりやうじ	四
青蓮院	せいれんゐん	六
瀬田唐橋	せたのからはし	八七
泉涌寺	せんにうじ	三
清閑寺	せいかんじ	三

## 第一章 京都概説

**位置、** 京都市は山城國の中部に偏し東經三十五度四十三分、北緯三十五度一分の位置に在る。

**廣袤、** 東西二里二十町、南北二里十五町。

**人口、** 六十七萬九千九百七十六人（大正十四年十月一日國勢調査）

**地勢、** 東部には一帶の東山丘陵南北に連互し、加茂川は市の北部に於て高野川を合せ、丘陵を南下して淀川となり遠く大阪灣に注ぐ。市街は大體北に高く南に至るに従ひ漸く低下す。随つて水系概ね南北に直流して凝滞せない。

市内を上京區、下京區に分つ。市の東西に通ずる三條通を以て境界とする。

**平安奠都、**桓武天皇即位し給ふや、奈良の積弊已に多く、又、その位置も亦、國運の進展に伴はざるを見給ひ、都を山城國長岡に遷し給ひしが、都城の造營十年にして成らず、漸くにして延暦十三年十月二十二日長岡より遷都があつた。平安は、當時民衆の稱謂をその儘都の名こせられたのである。

**安元の大火と福原遷都、**平安朝の末期、高倉天皇の安元三年(治承元年)四月、所謂、安元の大火があつた。都の東南の方より火が出て西北に至る。大極殿、朱雀門、大學寮を初め、殷盛なる左京の大半は皆焼土に化し、焼亡戸數二萬、死者數千に稱せられた。その後、治承四年六月、平清盛福原遷都を企て、官室殿舎、さては民屋何れも毀たれ淀川に泛んで新京に運ばれ、花洛曠野ならうとした。間もなく十一月に至りて御遷幸はあつたが再度の荒廢復容易に回復すべく見えなかつた。

**市街の東遷、**桓武天皇奠都當時の市區は、今の京都の西邊たる千本通を以て中央の朱雀大路に定められたが、その後、市街は漸次東遷し、遷都後二百年を経ざるに西半は殆んど郊墟に近くなつたやうである。

**大内裏荒廢、**桓武帝の大内裏は、四百餘年の間に凡て十六回の焼亡を重ね、遂に後堀河帝の安貞元年焼失以後、絶えて造營の事なく、皇居之より轉々して一所に定まらず、元中九年、南北朝合一以後に至り、漸く今の京都御所の地を以て皇居に定められた。爾來明治に至るまで約五百年。

**應仁亂後の衰頹、**應仁の亂は前後十一年に亘るの大亂にして、この間京都は殆んど荒野に歸した。當時の人歌に「たれや知る都は野邊の夕雲雀、あがるを見ても落つる涙は。」と、あるのを見ても當時に於ける荒廢の狀のいかに甚しかつたことを想像することが出来る。

この時に當り戰國亂離の間これが回復を謀りし英傑を織田信長及び豊臣秀吉とする。

**織田信長の入京、** 信長尾張より起り、近畿の諸雄を裁定し、永祿十一年入京するや、禁裏を造營せしめ又供御を豊にし奉り、公卿、市民の離散を招き、貧困を賑給したので、帝都は漸く恢復の緒に就いた。信長不幸にして天下統一の大業中にして明智光秀の爲にあたら非業の死をこけたが、幸にして秀吉その遺志を継ぎ、京都回復の大功を擧ぐるに至つた。

**東京奠都、** 豊臣、徳川滅び維新の大業成りて明治二年東京へ奠都あつた。平安奠都以來星霜茲に一千七十五、けれども天皇即位の大禮及び大嘗祭は京都に於て行はるこゝに御制定があつた。

**御大典、** 大正四年十一月十日紫宸殿に御即位の大禮を擧げさせられた。典儀の盛大崇高なる振古未曾有の大觀であつた。

**隣接町村の併合、** 大正七年四月一日、隣接町村の一部併合あつた。人口に於て九萬餘を増加し、將來に於ける大都市計畫の第一歩に就いた。

## 第二章 京都中央部

## 京都御所 市電「堺町御門」停留所北

舊皇居のある所、皇宮の外、仙洞御所、大宮御所がある。

皇宮は中央に在つて、周圍に門がある、北なるを朔平門、南なるを建禮門、西なるを宜秋門、東なるを建春門といふ。

紫宸殿は建禮門内に在る、先年、御大典の盛儀を行はせられた所である。

清涼殿は紫宸殿の西北にあつて東面してある。

『仙洞御所』、徳川幕府が寛永年中(家光の時)後水尾上皇の爲に造營せし所、歷代上皇の御所である。嘉永七年の火災以後再建の事なく、現在は唯だ林泉の佛にその舊觀の美を窺

ふを得るのみである。

『大宮御所』、仙洞御所の北方にある。亦寛永中幕府が東福門院の爲に造營せし所であるが、安政の火災に焼失し、今はその後再造せし常御殿と一屋宇を見るばかりである。

『御苑』、維新前は皇族及び公卿の諸邸第相連つてゐたが、漸次に取拂はれ、今や少許の建物、社殿の外、一帯の林泉草圃の間、綠苔白砂の清淨地と化した。

『祐の井』、は明治天皇御産湯の井であつて、皇宮の北鐵柵を周らせる庭内にある。この庭は舊中山邸址である。

『縣井』、は古歌に詠じた、山吹の名所である。

## 皇居の變遷

この皇居は南北朝時代延元元年に初めて北朝光明院の皇居となつたものである。それより

以前の皇居は度々變遷があつた。

平安朝の中頃より里内裏といふものが起つた。これは大内裏以外の地に營まれし皇居をいひ、始めは大内裏の災後等臨時の皇居たるに過ぎなかつたが、後には天皇は概ね里内裏に御在したまうた。

今の皇居は、里内裏の一にして、東洞院土御門殿といつたのを、延元元年、足利尊氏、光明院を擁立するに及び、此處を北朝の皇居と定めたが南北朝合一後、遂に正統天皇御座所となつた。現今の御建物は安政三年の御造營に係るものである。

### 二條離宮（舊二條城） 市電「二條堀川」停留所西

慶長八年、徳川家康の造營にかゝる。將軍上洛の際の宿所にして、一は京都に對して幕府の威を示さうとしたものである。明治十七年離宮となりてより今日に及ぶ。

## 附 近

### 神泉苑 二條離宮の南

この苑は、平安京盛時の遺構の一で、天子御遊宴の所。今は纔にその一部を存するに過ぎないが、古は京都第一の名苑と稱せられたのである。

### 大極殿址 二條離宮の西北三町

この地一帯は、延暦平安奠都の時、大内裏造營ありし所で、中世大内裏廢してその址定かならなかつたが、明治二十八年今の碑を建て、これを示された。

## 9 本能寺 市電「寺町二條」停留所南約二町

日蓮宗本山の一にして、僧日隆の開基にかゝる。初め油小路六角にあつたが、天正十年六月、織田信長の臣明智光秀反逆の時、堂宇兵火に罹り同十五年今の地に移つた。

### 三條大橋 市電「三條小橋」停留所東

三條大橋は、徳川時代に於ける諸街道の起點で、現時の橋は近年の改造である。その欄干擬寶珠は天正十八年、秀吉が増田長盛に命じて造らしめし時の遺物であるといふ。

### 新京極 市電「新京極」停留所北

今の寺町通は、平安京の當時市街の東端にあたり、東京極と稱せらる。これに因んで今その一部分を新京極と稱してゐる。往時は數多の寺院があつたが、今は京都第一の繁華の蒼こなつた。

### 高瀬川 市電木屋町線に沿ふ

高瀬川は、慶長十五年角倉了以の開疏したる運河で、以來久しく京都伏見間の貨物運輸の便利を得た。

### 五條大橋 市電「五條小橋」停留所前

五條橋は、往昔、今の松原通賀茂川に架せられたが、秀吉の時今の位置に移した。明治年代に入りて屢々改造があつたが、現時の橋の青銅擬寶珠の一部には正保二年の銘を刻せるものがある。

### 東本願寺 (眞宗大谷派大本山) 市電「東本願寺前」停留所

慶長七年、徳川家康の命により本派本願寺より分立し、これより本願寺は東西に分離して相對立するに至つた。第一代は顯如の長子教如、弟准如は西本願寺を繼ぐ。今は西本願寺と共に我宗教界の重鎮である。



諸堂宇は元治の兵火に罹り、現今の建造物は明治の新造營にかゝる。

阿彌陀堂は本尊阿彌陀如來の木像を安置する。東西二十一間、南北二十六間、疊數二百八十五ある。

眞影堂、親鸞聖人の木像を安んず。

その他、鍾樓、寢殿、書院、勅使門等完備し、壯觀を極む。

### 西本願寺（眞宗本派大本山） 市電「七條堀川」停留所北

眞宗の開祖親鸞（見眞大師）の女覺信尼、文永九年東山大谷の墓地に廟所を創建せしに起る。實に開祖寂後十一年のこゝである。その後、寺地は諸所に轉移したが、天正十九年、第一代顯如上人の時、豊臣秀吉今の所に土地を寄進して造營せしめた。

慶長年間徳川家康本願寺の勢力を割かんため、別に一寺（即ち東本願寺）を創立せしめてか

ら、二派に分るゝこゝになつた。

堂宇は元和三年に焼失した事もあつたが、爾來復興せられ、今に古建築物多く保存せられてゐる。

阿彌陀堂は、寶曆十年の造營に係る、本尊阿彌陀佛立像を安置してある。東西二十一間、南北二十三間、疊數二百八十五。

御影堂は、寛永十三年の建立で、親鸞坐像を安置する。

唐門、書院、玄關共に秀吉が桃山城の舊建築物で、彫刻裝飾等華美を極め、桃山時代書院造の代表的のものである。

飛雲閣、豊臣秀吉聚樂第の遺物で、三層閣書院造の構造巧妙を極む。

## 第三章 洛東の部

## 三十三間堂（天台宗）

博物館の南、市電「大和大路」停留所東

本名を蓮華王院といふ。本堂の柱間凡そ三十三あるので、三十三間堂と稱する。（その實は六十六間あり）長寛二年後白河法皇、平重盛に勅して建立し、堂内に一千一體の千手観音及び二十八部衆を安置す。元祿中修補を加へ六百餘年を経たる古建築物である。

「三十三間堂通矢」古來本堂の西軒下に於て弓術稽古を試みるこゝ盛に流行し、堂側を南北に射通すこゝの數多きを競ひ。各々射通したる矢數と姓名を記せる扁額を堂内に掲げて記念とする。今なほ古額の存するもの多い。

## 「後白河天皇陵」

三十三間堂の前、道路の東側にある。周圍九十間の小陵で、内に三間半

四方の法華堂が在る、天皇の尊像を安置す。

## 京都博物館

市電「妙法院前」停留所西

明治二十五年起工、同二十九年成る。一般公衆觀覽の爲め開館したのは同三十年五月であつた。全館十七室に分れ、本邦の遺品を時代別に配列し、他に儀禮に關する遺品等整理陳列せられてある。奈良博物館の彫刻と並び稱せらる。大正十三年京都市に恩賜せられた。

## 耳塚

博物館の西南、市電「大和大路」停留所北

元は鼻塚と唱へられ豊國神社の西南傍にある。高さ三間餘、塚の上に高さ二丈の五輪塔が置かれてある。文祿慶長の朝鮮役、我軍戰捷の證に斬劊してこれを送り、豊太閤の實檢に供したるをうづめたのである。

## 妙法院

（天台宗）

豊國廟參道入口北側、市電「妙法院前」停留所

後白川法皇の時、叡山より綾小路に移し、後、豊臣秀頼の時、現地に移轉せしものである。文久三年三條實美等七卿此處に會し、夜陰西奔せし故蹟として著はる。豊太閤に關する遺品も多い。

### 智積院 (眞言宗新義派總本山) 市電「妙法院前」停留所東

天正十三年、豊臣秀吉の征伐によりて焼滅せられし紀州根來寺の僧徒等が、徳川氏によりて同派の再興を計り、根來の學堂智積院の名を移して當寺を創立した。但し、その後火災に罹り現今の建物は新しきものである。

本尊不動明王の像は興教大師の作と稱せられてゐる。

### 豊國神社 (別格官幣社) 博物館の北、市電「大和路」停留所北

祭神、豊臣秀吉。明治元年、畏くも祠廟再興の命があり。同六年別格官幣社に列せられ、

十三年工成りて遷宮式を行つたのが今の神社である。

『沿革』、慶長三年、秀吉伏見城に薨するや、遺命により京都の阿彌陀峯に葬り、山麓太閤塚(豊國廟參道)の地に社殿を建て朝廷より豊國大明神の號を賜うた。徳川氏の世に至り、漸次荒廢して遂に破滅し、その墳墓も亦空しく林草の間に横はつてゐたが明治の聖代に至り公の偉勳を追賞したまひ、社殿再建の恩命に接し、御大典をあけらるゝに際し、正一位を贈られた。境内東南隅に一大五輪塔がある、高さ丈餘。徳川氏の豊國廟を廢毀して建てし供養塔である。

### 大 佛 (方廣寺) 豊國神社の北隣

豊臣秀吉の創建、開山は僧古溪。天台宗妙法院派。天正十四年、秀吉の創建せし佛殿は、

慶長元年七月の地震に破壊したが秀吉薨じて後秀頼再興し慶長十九年に成る。今の大鐘は當時の鑄造にかゝるものである。その後、佛殿屢々火災に罹り、天保年中僅かに半身の木像を造つたのが即ち現存の大佛である。當初の大佛殿は今の豊國神社本殿の後方高地にあつた礎石は猶殘存してゐる。(鐘)は國家安康云々の銘を以て名高い。高さ一丈四尺徑九尺二寸、厚さ九寸、智恩院の鐘に比して稍小さい。

### 豊國廟 (豊臣秀吉墓) 阿彌陀ヶ峰、市電「妙法院前」停留所東

慶長三年八月十八日秀吉伏見城に薨じ、同四年四月十八日この地に葬る。徳川氏の世、墳墓荒蕪に歸し、殆んどその跡を滅せんとしたが、明治に至り、有志相謀り、豊國會を組織して改修を企て、明治三十一年その工を竣へ、同年公の三百年記念祭を執行した。「建築」、石階、十一ヶ所、五百五十五段(此間の距離五百二十)間位置の高低五百尺)

五輪石塔、高さ三丈一尺八寸、周圍の石垣十間四方。

### 「新日吉神社」(府社) 豊國廟一の鳥居を入りて右側

祭神、大山咋神外六神。永暦元年、後白河上皇江州日吉神を勸請があつた。社殿はもこ、智積院の北にあつたが、明治三十年豊國廟修築に際し、現地に移轉した。

### 「秀頼妻子の墓」 豊國廟拜殿の北

大五輪塔は京極高吉の女壽芳夫人(名龍子)。小塔はその子國松の墓である。もこ誓願寺にあつたのを移轉した。國松は大阪落城後年八歳にして六條磔で殺されたといふ。

### 西大谷 市電「西大谷前」停留所東

本派本願寺の廟所である。慶長八年十月本願寺の准如上人、その祖師の遺骨を大谷より此に移し、新に廟宇をたてたのである。堂宇は慶應三年火災にかゝり、後、明治三年に再建

せられた。

清水寺（法相宗） 市電「東山松原」停留所東

初め大和に在つたが、延暦年中（桓武天皇の時）今の地に移し建てた。開基は僧延鎮で堂宇は坂上田村麿の創立と傳へてゐる。但し現今の建物は多く寛永年中に造營せるものである。境内眺望に富み、俯瞰遠望の勝景、洛東隨一と稱せらる。殊に谿谷は新高尾と稱し、紅葉の名所である。

『建築』、本堂は寛永十年徳川家光の建立。本尊は十一面千手觀音である。堂内額面多く懸り、就中寛永年中の末吉及び角倉船圖は歴史上の重要参考資料である。

本堂南方の掛出しは俗に清水の舞臺といひ、懸崖に憑つて高く架し、下方楓樹が多い。その他特別保護建物には、仁王門（樓門）、西門、三重塔、鐘樓がある。鐘樓の吊鐘には文明

十年の銘がある。

『墓』、僧月照及び信海の墓がある。月照は成就院の住職で勤王の志厚く、幕末西郷隆盛

に國事に奔走して、幕府の忌む所となり、遂に西郷隆盛と相擁して薩海に投じて死んだ。

時に安政五年十一月十六日である。正四位を追贈せられた。信海は月照の徒弟にして共に國事に奔走し、安政六年、六角の獄舎で歿した。從四位を追贈せらる。

○亡友月照十七回忌辰作

西郷隆盛

相約投淵無後先。 豈圖波上再生縁。 回首十有餘年夢。 空隔幽明哭墓前。

『音羽の瀧』、寺内の南崖にある溪間一縷の水に過ぎないが、清水の名はこれに依つて起つたので、古來有名な飛泉である。

清閑寺 (眞言宗) 清水寺東南山中

延暦二十一年、紹繼法師の開基といふ。現時は、荒廢して僅かに本堂、鐘樓等一二の堂宇を存するのみ、境内の郭公亭は、幕末大西郷三日月照この密議の所なりといふ。

「陵墓」

六條天皇陵、寺の北方山腹の石段上にある。

高倉天皇陵、前陵の下方に在る。兩陵各土塀を廻らし、正面高麗門内に鳥居がある。兆域周圍合せて二百十五間。

「並河天民墓」、寺後一町にある。天民は徳川時代の漢學者。

八坂五重塔 (特建)

此處は聖徳太子創建の八坂法觀寺なる大寺院であつたが漸次衰頽して今僅かにこの塔及び

他の小塔を存するのみである。現在の塔は、永享十二年足利義教の建立せるもので高さ十二間。

高臺寺 (臨濟禪宗) 八坂塔北

慶長年中、豊臣秀吉夫人が秀吉の冥福を祈るため建立せしもので、開山は三江和尚 (建仁寺僧)。

「建築」

總門 (特建)、桃山城より移せしもので、彫刻は左甚五郎の作である。

開山堂 (特建)、慶長年中の建立。開山三江和尚の像を安置する。

靈屋 (特建)、慶長年中の建立。秀吉及び夫人の像を置く。内部の色彩は華麗で高臺寺時繪の名はこれより起る。

時雨亭及び傘亭、共に伏見城より移せしものであるといふ。

『靈山』 高臺寺東方山腹

舊靈鷲山正法寺の境域なるを以て名づけたのである。寺は今僅かに一堂宇を存するのみであるが、明治九年有志相謀りこの地に招魂場を設け、幕末維新の功臣を祀つた。木戸孝允、中岡慎太郎、阪本龍馬、藤本鐵石、玉松操、梅田雲濱、平野國臣等、知名人士の墓所甚だ多い。

『將軍塚』 圓山公園東方山上

桓武帝平安奠都の時、三城の鎮護として高さ八尺の土偶に甲冑弓箭の武裝を施し、西向してこの地に埋めたりといふ。その後、國家變あるの時は、この塚毎に鳴動したといひ傳へてゐる。

賴山陽墓、將軍塚に登る道の左側にある。山陽の子三樹三郎等の墓碑はこれと並列してゐる。

建仁寺 (臨濟禪宗大本山) 建仁寺町四條南、市電「四條繩手」停留所南三町半

建仁二年、僧榮西の創建、禪宗臨濟派五山の一である。屢々火災に罹り、往時の盛觀見るべからざるも、尙境内廣く市内有数の巨刹である。

勅使門は鎌倉時代六波羅邸の門である。或は曰ふ平教盛の邸である。孰れにしても七百年前の舊門たるを失はない。門扉の諸所に矢痕があるので一名矢の根門ともいふ。

八坂神社 (官幣大社) 四條通東端、市電「祇園石段下」停留所東

祭神は素盞鳴尊。昔は祇園感神院と稱せられたが明治元年今の名に改めた。その祭禮即ち祇園祭は、古來京都の壯觀である。

西樓門（特建）、足利時代の建造にかゝる。  
 本殿（特建）、承應三年（徳川家綱）造營。  
 石鳥居（特建）、もこ木造であつたのを天保三年石造に改めた。

### 圓山公園 知恩院の南

面積二萬九千坪餘、明治十九年公園となり、大正元年改修した。園中の一老櫻樹は祇園櫻と稱し、花時の夜景實に美觀である。

### 知恩院（淨土宗總本山） 圓山公園の北隣

本寺は僧源空（法然上人、圓光）の開基である。爾來堂宇屢々焼失し、現今のものは多く徳川家光の再建する所である。  
 『建築』

山門（特建）、元和五年、徳川秀忠建立。「華頂山」の額は靈元帝の宸筆。規模宏大我國最大の山門と稱せらる。桁行十四間梁間六間。

本堂（特建）、寛永十六年、徳川家光建立。東西二十四間、南北十九間餘。東山第一の大伽藍である。堂内に法然上人の自作像を安置してある。

廻廊（特建）、本堂の背後より衆會堂方丈に至る間の廻廊外縁等長さ約三百間は、所謂、鸞張と稱し歩々一種の妙音を發する。

經藏（特建）、元和五年山門と同時に秀忠の造營である。

勢至堂（特建）、足利初期の造營であらうといひ、本院中最も古きものである。

『鐘』、知恩院の大鐘にて有名のもので、大阪四天王寺の洪鐘に次ぎ、日本第二の大鐘である。寛永十三年、徳川家光の時鑄造せしもの、高さ一丈八尺、直徑九尺五寸、厚さ九寸五



分。

『附近』

『花園天皇陵』 知恩院の北

道路の東側に門がある、登る事一町餘で達する。陵は西面の小圓墳で周圍に稜形の古い玉垣を廻らされてある。境内は高燥で展望の勝がある。

青蓮院 (天台宗) 知恩院北隣

近衛帝の天養元年、行玄大僧正の開基に係る。覺快親王(鳥羽帝皇子)入室以來、代々皇族入寺せられ、以て維新に至る。就中尊圓法親王(伏見天皇皇子)は筆蹟精妙、世に御家流と稱する書風の祖であらせられる。

『粟田口』 青蓮院東北一帯の稱

舊時東國より京都に入る往還の咽喉なので名高く、この邊、刀劍鍛冶又は陶器職を以て著はれてゐる。

疏水運河 市電「蹴上」停留所東北

開鑿年時、明治十八年八月起工、(當時府知事北垣國道)同二十三年竣工式舉行。運河水路、全線七里餘。

幹線、大津三保崎より加茂川岸まで二里二十九町四十七間。

支線、蹴上より北方迂回小川頭に至る二里五町餘。

鴨川線川端丸太町下るより伏見迄二里九町餘。

南禪寺 (臨濟宗本山) 上京區南禪寺町、市電「南禪寺前」停留所東入

初、龜山上皇の離宮であつたが、後僧普門(大明國師)に賜うて寺となつた。

鎌倉時代より禪宗甚だ盛かなり、當寺は京都五山の上位に置かれ、最も尊信せられたが、應仁の大亂には諸堂悉く焦土に化し、豊臣、徳川氏に至り、漸次再建された。

『建築』

山門（特建）、寛永五年、藤堂高虎の建立。樓上に徳川家康、藤堂高虎、崇傳の本像を安置す。

大方丈（特建）、慶長十六年、舊清涼殿を下賜せられたるものである。

小方丈（特建）、伏見城の遺物であるといふ。

『陵墓』

後嵯峨帝皇后陵（大宮院栗田山陵）、南禪院の奥に在る。周圍四十八間。

龜山帝御分骨所、南禪院の南庭にある小堂。周圍四十三間。

細川幽齋夫妻墓、天授庵墓地にある。  
梁川星巖夫妻墓、同上。

永觀堂（淨土宗） 南禪寺の北

僧眞紹の開基である。淨土宗西山派に屬し、禪林寺と稱へたが、中興永觀律師（承暦年中の人）の名が著はれしにより遂に永觀堂と稱せらるゝに至つた。寺域は紅葉の名所である。

若王寺神社 永觀堂の北東山の麓

祭神、國常立尊、外三神。永暦元年、後白河法皇が紀伊熊野權現を勸請したまひしものといふ。紅葉の名所として名がある。夏は納涼によく、炎暑の候非常に賑ふ。

黒谷（金戒光明寺、淨土宗） 岡崎町字黒谷

淨土宗、鎮西派本山である。法然上人（源空）が比叡山黒谷より出て、この地に創建したの

で黒谷と號する。應仁及びその後屢々火災に罹り、現今の堂宇は徳川時代の建立である。

『墳墓』

山崎闇齋墓、玉瀾女史墓、百合女墓。

眞如堂（眞正極樂寺、天台宗）

東三條院（一條天皇母）の離宮を以て寺となし給ひしに始まる。（今の地の東）その後幾回か遷移して元祿六年今の地に轉じた。堂宇は寶永二年の再建に係る。この地前面神樂ヶ丘に對し、風景亦頗る雅致に富んで居る。

岡崎公園 平安神宮の南

明治三十七年七月開園、總坪數二萬五千餘坪。圓山公園と共に京都市の二大公園である。この地、中古は六勝寺にて法勝、尊勝、最勝、圓勝、成勝、延勝諸寺の堂宇を並べた地

で、近時まで地中から古瓦礎石等が多く出た。

『市立動物園』、園内に在る。明治三十三年八月、東宮（今上陛下）御慶事記念として作り、翌年四月開園した。

『府立圖書館』、園内西方に在る。初めは御苑内にあつたが、明治四十二年移轉開館した。『市立商品陳列所』、明治四十二年開館。近來帝國美術院展覽會をも毎年この邊に開催する。

平安神宮（官幣大社） 上京區岡崎町、市電「大極殿前」停留所北

明治二十八年、京都市に於て桓武天皇平安奠都千一百年祭を舉行した際、天皇の宏謨を追慕し殿舎を創建したるもので、その年二月落成した。

官祭は毎年四月十五日に行はれ、私祭たる時代祭は十月二十二日に行はれる。時代祭は京都の一名物で過去一千年間平安朝より明治初年迄各時代の服裝をして行列し、神幸の式を

行ふのである。

「社殿」、殿舎は、往古平安京の大極殿及び應天門を模造し、延暦の昔を追懐せしめる。

應天門、高さ十間四尺、桁行十間、梁間四間。

大極殿、高さ九間一尺、桁行十八間二尺、梁間六間二尺。

本殿、大極殿を拜殿としてその北に在る。

武德殿 平安神宮の西隣

明治三十二年に成る。毎年五月四日平安神宮に於て武德祭を執行し、全国の武術家集合して諸種の技を戦はす。桓武天皇平安奠都のとき大内裏に武德殿を建て給ひし故事に基き、大日本武德會創立後、此處に設けられた。

聖護院 聖護院町、市電「熊野神社前」停留所東北二町

天台宗大本山、智證大師の開基である。維新以前は聖護院宮と稱して親王が門跡ならざるを例とした。又徳川時代は、修験道本山派の山伏を總べた。昔は、この附近は、森ミ田圃まであつたといふが、今は人家稠密してゐる。聖護院大根の名が世に知られてゐる。

吉田神社 (官幣中社) 吉田町神樂岡、市電「熊野神社前」停留所北五町餘

武甕槌命、經津主命、天兒屋根命、姫大神の四座を祀る。清和帝の貞觀元年、藤原山陰、大和國春日社の前記四神を勸請して王城の鎮守させしに始まる。但し現今の社殿は慶安元年の改造である。

「齋場所」(特建)

神職卜部兼俱の建立で、その八角造は佛殿の八角に形ざりしもの、而も屋根の上部は唯一

神明造の構造である。他に類を見ざる建築風である。

京都帝國大學

市電「熊野神社前」停留所北五町

明治三十年六月十八日始めて設置され、理、工、醫、文、法、經、農、の諸科に分る。

『尊攘堂』、構内圖書館の南方に在る。故品川彌二郎氏の創立で後此處に移轉した。維新前後の勤王志士の肖像遺墨等を保存し、その忠魂を祀る。毎年四月第二土曜日に記念祭を行ふ。

百萬遍知恩寺 (淨土宗)

京都帝國大學西北方

初め相國寺の地域に在つたが、寛文三年今の地に移る。百萬遍の名は、後醍醐帝の時、疫病流行せし時、當山第八世空圓が百萬遍の念佛を修し、爲めに疫病が止んだので後醍醐帝が百萬遍の號を賜うたさいふ。

境内墓域に鳥居元忠、日乘上人の墓が在る。

『諸學校』

大學附近は學校町の觀があつて、第三高等學校、高等工藝學校、美術工藝學校、繪畫專門學校、府立第一中學校がある。

銀閣寺

(慈照寺臨濟宗) 上京區淨土寺町宇宮之前

天明十五年、足利義政の造營。初め義滿の金閣に倣ひ銀を貼らうとしたが未だ成らざるに歿したのでその名ありて實件はない。遺命に依り寺院をなし相國寺の末寺とした。金閣と共に世に名高い。

『建築』

銀閣(特建)、文明建造當初の遺物で重層寶形造。屋上に銅製の鳳凰を置く。

東求堂（特建）、銀閣と同時の建築に係る。義政の持佛堂であつて、現にその木像及び靈牌を安置してある。茶の湯の間は四疊半茶室の濫觴で義政の創意であるといふ。これ等堂宇の間には、巧に如意嶽の一部を利用して庭園をなし、林泉の配置、岩石の舗設、眞に宜しきを得てゐる。これ相阿彌の創意に出でたものであるといふ。

#### 大文字山（如意嶽） 比叡山と相對する高峰

銀閣寺の東方に聳え、海拔四六五米突、山頂に近く一大文字を畫き、毎年八月十六日夜、これに薪を積み火を焚く。大字形の光燄天に浮んで一大壯觀である。大の字第一畫の長さ四十間、第二畫八十間、第三畫六十八間。大文字點火の起原は詳でない。傳へていふ、弘法大師がこれを始めた。その後廢絶してゐるが、足利義政が復興せしめたといふ。

### 第四章 山科方面の部

#### 天智天皇陵 京津電車「御陵」停留所北三町

山城にある御陵中、桃山陵を除きての最大なるもので兆域實に七百七十五間、陵形は上圓下方墳をなし、高さ三十四尺、最下壇は四十六間四方ある。桃山御陵は本陵の形式に則つて築かれたものであるといふ。

#### 坂上田村麿墓 山科村字栗栖野勤修小學校の北隣

田村麿は嵯峨帝の時年五十四を以て洛東粟田口の別荘に薨す。帝は山科に地を賜ひ墓所をなすしめたまうた。明治二十八年平安遷都一千百年祭の時、有志謀りて墓地を改修した。

大石良雄邸址 山科村字西野山岩屋寺境内

良雄主君の復讐を念じ、この地に隠棲して世の耳目を避けた。事成るの後、邸地を岩屋寺に寄附した。寺には義士の木像寶物等を藏してゐる。

勸修寺 (眞言宗) 山科村勸修寺

随心院 (眞言宗) 山科村日野

醍醐寺 (眞言宗) 宇治郡醍醐村字醍醐

清和帝、貞觀十六年、理源大師の創立。醍醐寺は一山の總稱で特別の寺名ではない。地形により下醍醐と上醍醐に分ち、その間三十町を隔て、それ／＼に多數の寺院がある。

法界寺 (眞言宗) 醍醐村字小野

永承三年日野資業の創立に係る。境内の本願寺別堂は親鸞上人の誕生地であるといふ。

### 第五章 洛北の部

相國寺 (臨濟宗) 御所の北

永徳三年足利義滿の創立。開山は妙葩(普明國師)。京都五山の第三位である。本寺境域は應仁の亂兩軍必争の地であつたので、堂宇一切兵火に罹り、慶長年間豊臣秀頼法堂を再建せしより漸次に復興したが、天明八年の大火に伽藍多くは焼失し、唯法堂のみを剩すのみとなつた。爾來年を追うて再建し今日に至る。境域今猶ほ總面積二萬三千餘坪ある。

「墳墓」

足利義政墓 慈光院墓地に在る。

藤原惺窩墓 林光院墓地に在る。

白峰宮 (官幣中社)

堀川今出川、市電「堀川今出川」停留所

淳仁天皇崇徳天皇を祀る。初め孝明天皇、崇徳天皇の神靈を慰めん爲め祀殿を京都に造立せんとして果し給はなかつた。明治天皇その遺圖をつがせられ、先づ明治元年、勅使を讃岐白峰の崇徳御陵に遣はし祀る所の御神體を奉安して新宮に鎮座し奉り、同六年、再び勅使を淡路に遣はして淳仁帝の御神靈を迎へてこゝに合祀し奉られた。

北野神社 (官幣中社)

市電「北野」停留所前

祭神は菅原道眞。道眞客死せしより四十五年後、天曆元年、初めて今の處に奉祀した。社殿、中門、東門、廻廊、透塀、後門は、慶長十二年、豊臣秀頼が片桐且元を普請奉行として、造營したるもので優秀なる建造物である。境内は梅樹多く、東の馬場は昔の右近馬場であつて老松枝を垂れてゐる。

天正十五年十月朔日、豊臣秀吉は、この松原に於て大茶湯會を催した。この湯會の壯事は今に語り草になつてをる。社の西方、紙屋川の堤は、往時秀吉が京都市區整理の時、市の周圍に築きし大築堤の遺存せるものである。

平野神社 (官幣大社)

市電「北野」停留所より北二町

今木神、久度神、古開神、比咩神の四神を祀る。本社は初め大和に在つたが、桓武天皇の時此地に移つた。境内は櫻の名所である。

大徳寺

(臨濟宗大徳寺派本山)

大宮村、市電「今出川大宮」停留所より北十三町

後醍醐天皇正中元年大燈國師妙超を開基させられ、京都五山の一に列せられた。後享徳、應仁の兩度の兵火に罹りしが、文明年間、一休和尚復興した。



『堂宇』

本堂には本尊釋迦三尊を安置す。山門、唐門は桃山時代の建營に係り、方丈、經藏、鐘樓、浴室、本堂、寢殿、庫裡、勅使門は徳川初期の建營に係り、皆特別保護建造物である。

『沿革』

開山妙超は播磨の人、初め立徹(大應國師)に従ひ建長寺に赴き、後、京に歸りて紫野に小堂を建てた。後醍醐天皇深くこれを崇敬したまひ、伽藍を創立せしめたまひ花園上皇は興禪大燈國師の號を賜うた。延元二年十一月寂す。天正十年織田信長本能寺に自刃して後、その葬禮の儀暫くなかつたので、豊臣秀吉は主としてその法事を營むため、十月上旬よりその用意を成し、同十一日より葬禮を大徳寺にて行うた。本寺は朝廷の崇敬深く且つ織田、豊臣二氏に關係深きを以て什寶極めて多く、その中、後醍醐天皇宸翰一幅、後醍醐天皇大

燈國師御問答二幅は(國寶)最も著名である。

『墳墓』

織田信長及びその一族、總見院堂趾の北にある。

豊臣秀吉母大政所、天瑞院趾にある。

千利休、聚光院墓域にある。

石田三成、三女院にある。

小堀政一(近江の人)、孤蓬庵の東南に在る。

黒田如水、龍光院に在る。

その他數氏の墓が在る。

建勳神社(別格官幣社)

市電「千本今山川」停留所より八町、船岡山東端中腹

織田信長を祀り、明治八年四月別格官幣社に列せらる。本能寺の變後、秀吉は信長を大徳寺に葬つたが、更にその菩提を弔ふため船岡に巨利を經營せんとしたが、中途にして止め、維新の初め、朝廷その勤王の志を追賞したまひ、この社を創立せられた。

### 金閣寺 (鹿苑寺、臨濟宗)

金閣寺町、市電「北野」停留所より北十六町、乗合自動車あり。

應永四年足利義滿の造營せし山莊。同十五年、義滿の此に薨するや遺命により寺とした。三重閣の上層金箔を以てせるが故に俗に金閣寺といふ。

### 「沿革」

足利義滿此處を好み隠退の處となし、應永十五年此にて薨す、世に北山殿といふ。蓋し義滿豪奢の跡である。應永十五年三月小松天皇此處に行幸あらせられ其際の盛儀は世に稱せ

られてゐる。爾後堂宇は應仁永祿の兩度兵火に罹り當時の遺物は唯金閣あるのみである。

### 「附近御陵」

三條天皇陵。花山天皇陵。二條天皇陵。一條天皇御火葬所。附近にある。

### 等持院 (臨濟宗)

市電「北野」停留所より西七町

興國中足利尊氏の創立。夢窓國師を開山とす。堂宇は一時完備し、足利義政、豊臣秀頼等の修造はあつたが、文化五年火災に遭ひ、今の堂宇はその後の建築に係る。尊氏以下二代(五代)十代を缺く木像は本堂に安置してある。幕末の勤王家高山彦九郎の慷慨鞭らしこいふは是である。又維新前浪士等尊氏以下三代の木像の首をこの寺より取り出し逆臣の巨魁なりとし、三條河原に梟首せしこいふ。

### 鳳峰光悅寺 (法華宗)

愛宕郡鷹ヶ峰村

初め大虚庵ミ號す。本阿彌光悦の開基にかゝり、法華宗である。  
『光悦傳』

光悦は京都の人、本阿彌光二の養子で、本職は刀劍鑑定であつたが、能く諸藝に通達して各一家を成した。書は平安三筆の一人(近藤龍山公及狸々翁共)、繪は狩野永徳に學びて更に一新機軸を出し、その他、造園、造陶、蒔繪、茶道等行くこして可ならざるなき一大藝術家であつた。家康江戸に召さうとしたが辭して出なかつた。因りて所司代板倉勝重に命じ鷹ヶ峯の地を與へた。寛永十四年二月この地に歿す。年八十二。

#### 下賀茂社 (賀茂御祖神社、官幣大社) 市電「河原町今出川」停留所より約五町

祭神は玉依姫命、建角身命。この二柱は上加茂社の祭神たる加茂別雷神の御父母に當らせらるるので、御祖神社と申す。創建は上古にありてその年代を審にせない。桓武帝

平安奠都の時、上下兩社を並稱して王城の鎮護ミせられた。

#### 『社殿及祭事』

社殿は寛永年間の建造に係り、特別保護建造物に指定せらる。

有名なる葵祭は、毎年五月十五日に行はれる。昔時の盛大はないが極めて優雅なる祭禮にて中古の書に「まつり」に記せるは多くこの祭をいふのである。また男山八幡の祭に對して「北まつり」にもいふ。

境内老松多く、風致殊に佳。南北朝時代の古戰場なりし糺の森はこれである。

#### 上賀茂社 (賀茂別雷神社、官幣大社) 下賀茂社より北一里弱

祭神、賀茂別雷神。沿革祭事、社殿造營の年代等下賀茂社と相同じ。

#### 修學院離宮

愛宕郡修學院村、電車觀山行電車にて修學院停留所より東四町

承應年中、徳川家綱、後水尾天皇の勅を奉じて營む所である。一旦頽廢に歸したが、仁孝天皇文政七年徳川家齊に勅して再興せしめられたるものが今の離宮である。

『沿革』

離宮は元上下の二所に在つた。明治十八年二月又中離宮を營みて三所になつた。

上離宮には詩洗臺、隣雲亭、浴龍池、窮遠軒等があり、中離宮には、樂只軒、御客殿があり、下離宮には、壽月觀、藏六庵がある。

比叡山延曆寺

(天台宗總本山) 近江滋賀郡坂本村

桓武天皇の延曆七年、僧最澄(傳教大師)の創建。位置京都に近く、王城の東北、所謂鬼門に當り、王城鎮護の道場として歴代の尊信甚だ深かつた。従つて京都朝廷の政局に對して常に重大なる勢力を有してゐた。

『沿革』

延曆四年、最澄始めて比叡山に登りて地を卜し、七年桓武帝のために根本中堂を建て比叡寺と號し、後、一乘止觀院と稱し、弘仁十四年延曆寺と改めた。天長元年、僧義眞を以て天台座主となし、四年勅許に依りて戒壇院を建てた。延喜二年宇多法皇の行幸があり、天長三年、康保三年何れも根本中堂が焼けた。永延二年又一條天皇の行幸があり、天長十年圓珍座主に補せられんとして衆徒に容れられず、三井寺を中興して天台の別院とした。後、三井寺獨立して戒壇を設くるや延曆寺これを聽かず、これより兩寺相抗爭して止まなかつた。後醍醐天皇中興の業を企て給ふや屢々此に行幸したまうた。その後、諸堂荒廢したが、永祿六年綸旨を下して諸國に勸進した。元龜二年、淺井朝倉の徒に與みするや、信長のために攻められて三千の大家、數千の堂塔悉く滅んだ。豊臣秀吉寺領を寄せて専ら再興に

盡し、徳川氏亦その志を繼ぎ、家光に至りて悉く成り、稍々古の盛觀に復した。今存する所の諸堂は即ちこれである。

「建築」

根本中堂、本尊は藥師如來。寛永年中家光の建立。大講堂、本尊は大日如來、寛永年中建立。戒壇院、本尊は釋迦、寛永年中創立。僧徒の受戒は皆此で行はれた。前唐院、大講堂の後にある。慈覺大師の廟所である。

比叡山四明嶽

登山するには八潮より電車の便あり。

比叡山四明嶽は海拔八百五十米突で最高峰である。西は京都市を直下に見、東には琵琶湖を臨み風光絶佳である。頂上の巨岩は將門岩と稱し、平將門がこの岩に腰をかけ京都を俯瞰したと傳へてゐる。

詩仙堂

愛宕郡修學院村字一乗寺、八瀬行電車一乗寺停留所下車

石川丈山、隱棲の山莊。寛永十八年造る所である。

「沿革」

石川丈山は、初め大阪の役、徳川家康に従うたが、軍令を犯して黜けらるゝに及びこの地を選んで閑居した。性質驍勇にして武事に熟練し、又詩歌に巧で諸名士と詩文を以て交つた。その詩仙堂と稱するは漢、晋、唐、宋の詩に名あるもの三十六人を選び、狩野探幽にその像を畫かしめ又自ら一首の詩をその上に題して四壁に掲げたからである。

松ヶ崎妙泉寺 (日蓮宗)

初め天台宗であつたが、永仁年中、僧日像に歸依して一村が悉く改宗したといふ。今の本堂は聚樂邸の厨庫であつたと傳へられてゐる。毎年八月十五六日の兩夜法華の題目に節

つけて踊をするのは有名である。

### 三宅八幡(村社) 修學院村三宅

創立不詳。近時、小兒の厄除神として參詣するものが甚だ多い。

### 岩倉公幽居跡(岩倉村)

岩倉具視公、文久元年、公武合體の説を唱へて容れられず、西賀茂靈元寺に屏居し、後、岩倉村に幽居して時運を待つ、志士の來りて密會するものが多かつた。遂に慶應三年十二月、起つて大政維新の宏業に參與するに至るまでの潜龍伏在の地である。公の薨後遺髪を埋葬して碑を立てた。

『萬里小路藤原房卿遺髮塔』 岩倉公幽居址の北

元弘の忠臣藤原房卿、建武中興の弊政を極諫して容れられず、暫時この地に屏居したこい

ふ。古色蒼然たる一寶篋印塔は、その遺髮塔であるこいふ。

### 八瀬 愛宕郡八瀬村、叡山電車終點

八瀬村は高野川の北八瀬川の流るゝところ比叡山の西麓に當る。

元弘元年、足利尊氏、叛して京都を犯し、後醍醐天皇の叡山に遷幸あらせられし時、村民車駕を奉じて叡山に達したこいふ。八瀬の村民は世々禁宮に出入して行幸の時には駕輿丁を勤仕し今代に至る。

叡山の西麓八瀬は、叡山電鐵會社の經營により、今は遊園地として種々の設備があり、附近の風光亦絶佳。

### 三千院(天台宗) 愛宕郡大原村、八瀬より乗合自動車あり。

三千院又圓融院こいふ。貞觀年中、僧承雲の開基で天台宗延曆寺に屬す。今の殿舎は慶

長年中の建造に係る。近時大に修補を加へた。

『往生極樂院』

三千院境内の佛堂で、永觀三年惠心僧都の創建。本尊は阿彌陀佛。天井に彩色を以て描いてある二十五菩薩の像、佛背の彩色兩界曼陀羅、何れも惠心の筆であるといふ。

『後鳥羽天皇及順德天皇陵』 三千院の北

承久の亂、兩天皇北條氏の爲めに遠島に遷され給ひて崩御ありしが、從士御遺骨を奉じて歸り、此に埋葬し奉る。南方は後鳥羽天皇のにして十三重石塔が立つてゐる、感慨殊に深い所である。

寂光院 (天台宗) 大原村八瀬より乗合自動車あり。

安徳帝の御母、建禮門院の御隠栖の地で、文治二年四月、後白河法皇の臨幸があつた。平

家物語に所謂大原御幸是れである。今の堂宇は、慶長八年、淀君の發願で豊臣家より改築したのである。

『建禮門院御陵』、門院は平清盛の女、徳子にして安徳帝の御生母である。壇の浦の戦後歸京したまひ、吉田にありて出家し、文治元年九月、寂光院に入らせられた。隠栖二十八年、建保元年十二月この地に崩御せられた。御年五十七。

鞍馬寺 (天台宗) 愛宕郡鞍馬村、植物園前より乗合自動車あり。

桓武天皇の延暦年中、藤原伊勢人の創建。三度火災に罹り、現在の堂宇は多く明治五年の造營である。平家全盛時代には、平家一門の學問所であつたといふ。

『境内史蹟』

僧正ヶ谷、本堂西北十餘町の處にある。源義經の幼時武技を練習せし所と傳へてゐる。

『由岐神社』、鞍馬村の氏神で（大日貴命を祀る）十月二十二日の火祭は有名である。社殿は慶長十二年秀頼の再建せしもの。

### 貴船神社（官幣中社） 愛宕郡鞍馬村

高御神（伊弉諾命の御子）を祀る。創建年代は古くして詳でない。今の社殿は文久年間の造営である。社域幽邃洛北の仙境である。神社は貴船山の中腹に在る。

## 第六章 洛西の部

### 妙心寺（臨濟宗） 花園村、市電「北野停留所」西六町

臨濟宗妙心寺派の本山。初め花園法皇の離宮を以て禪刹とせられしもので關山國師が開山である。寺域方町餘、堂宇は殆ん皆特別保護建造物に指定されてゐる。應永年間、足利義満の怒に觸れて寺領を沒收せられて一時荒廢し、後、日峰和尚がこれを中興したが、應仁の亂兵燹に罹り、雲江和尚これを再興し、又舊觀に復した。元和以後は寺運殊に隆昌となり、現今子院四十餘宇在る。

### 「鐘」

方丈の西鐘樓にある鐘は頗る古制で、文武天皇□□二年の鑄造ミ言傳へ、本邦に於ける銘



を有する鐘の最古のものである。高さ三尺九寸、徑三尺四寸、厚さ二寸二分。  
『佐久間象山墓』、同寺の西方大法院墓地にあり。象山は、元治元年七月、木屋町二條下る所に於て水戸浪士の爲めに暗殺せられたが、義僕遺骸を此に葬る。

『附近』

妙心寺の西一町餘にある丘を雙ヶ丘といふ。平安朝時代、清原夏野が山莊を營みし所。又、兼好法師が隠栖の地である。

遙々こならびの丘の初紅葉

秋の嵯峨野の往來にもみる。(後宇多法皇)

仁 和 寺

(眞言宗) 花園村、御室、妙心寺西北約五町

仁和二年八月、光孝天皇の勅願によりて創建せられ、宇多天皇の仁和四年八月成り、大内

山仁和寺と號す。爾來屢々火災に遭ひしも、漸次堂宇を増營した。

『沿革』

宇多天皇落飾の後、御室を此に營み、法務の御所となし給うたので世に御室と稱するに至つた。現今の堂宇は多く徳川家光の寛永年間になつたものである。就中、金堂、御影堂、五重塔は特別保護建造物として注意すべきものである。

『境内』は殊に櫻樹多く御室の花と稱して都人に賞せられる。

廣 隆 寺

嵐山電車「太子前」停留所北側

太秦寺ともいふ。推古天皇の十二年秦河勝が、聖德太子の命を受け創建する所である。  
『桂宮院』、境内の西方八稜形の堂宇をいふ。建築年代は詳でないが鎌倉時代の末期か、足利時代の初めで有らう。俗に八角堂といふ。

『太秦燈籠』、寺務所の庭にある。大治三年の製作に係る言傳へ、世に太秦形といつて有名なものである。

### 大覺寺 (眞言宗)

山陰線「嵯峨」驛より北五町

初め弘仁二年、嵯峨天皇御創建の離宮である。その後、貞觀十八年佛寺とし、恆寂法親王を開祖とする。

後嵯峨、龜山、後宇多の諸帝は、御讓位の後當寺に入御あり、元中九年、南北合一の御儀も此處で行はれた。依つて嵯峨御所の稱起り、又その御子孫の皇統を大覺寺派と稱し、兩統送立の時代に於て持明院派と對峙せるは國史上著名である。

### 〔附近〕

大澤池、嵯峨帝の離宮の庭池たりしもの。

廣澤池、觀月の名所として名高い。

### 天龍寺 (臨濟宗)

嵐山電車「嵐山」停留所北一町

延元四年、將軍足利尊氏が後醍醐天皇の冥福を祈る爲めに建立せし所で僧疎石を開山とし、五山第一位に列す。

### 〔沿革〕

この地は、後嵯峨、龜山二帝離宮の遺跡で龜山殿と稱したが、延元四年八月、後醍醐天皇吉野に崩御あるや、足利尊氏、僧疎石の勸めに従つて天皇追福の爲めこの地に佛寺を建立し、疎石を開山とした。疎石は即ち夢窓國師であつて觀應二年七十七を以て入寂した。

### 〔陵墓〕

後嵯峨、龜山兩帝陵寺の北方にあり。

## 清涼寺

嵐山停留所北五町

奈良東大寺の僧齋然入宋して本尊釋迦如來の像を請來し、これを安置せし所で、初め眞言宗であつたが後淨土宗になつた。本寺は又嵯峨の釋迦堂ともいふ。

この地はもこ、左大臣源融が棲霞觀山莊の地で後佛刹になつたが、齋然は釋迦像をこの寺の傍に安置せんことを企て、弟子盛算その志を繼いで堂宇を建立し、五臺山清涼寺と稱す。

本尊は齋然請來の釋迦立像で、堂は寛永焼失後、元祿年間、徳川幕府の造營に係るものに修理を加へたるものである。像は世に三國傳來の釋迦といつて名高い。

阿彌陀堂は本堂の東南にある。堂は又栖霞寺と稱し、古の栖霞寺の遺跡であるといふ。彌陀三尊は平安朝の優秀なる作である。

## 寶篋院

釋迦堂の西方一町

本院は天龍寺派に屬し隆盛であつたが、維新前後火災に罹りその後荒廢してゐたのを新に堂宇を建造し大正六年五月二十八日入佛式を行ひ、再び隆盛を見るに至つた。

『小楠公』の墓がある。正平三年の正月、四條畷に於て小楠公が戦死する前日、默庵禪師に陣中に會見し、死後に於ける數々の事を禪師に委託したが、果して翌日戦死を遂げたので禪師はその首級を法衣に包んで歸り來り、寶篋院境内に埋葬してその冥福を祈りしものといふ。

『足利義詮』の墓がある。義詮小楠公の忠節を深く欽慕し、默庵禪師に死後は小楠公の墓畔に墓碑を建立のこころを遺言したのでこれを承諾し、千載の恩讐二つながらその塋域を同じうして相並び、この境内にある。

## 嵐山 嵐山電車「嵐山」停留所下車

丹波の南部より連互せる山脈の一部で、小倉山龜山と對し、大堰川の清流に臨む。殊に山中櫻樹に富み又楓樹が多い。春秋の美觀は京洛第一の名勝である。川に架するを渡月橋といふ。往昔は、今の橋より一町餘の上流にあつて宏大なる石柱の橋であつたといふ。大堰川の上流を保津川といふ。慶長十年、角倉了以が開疏し、舟筏の便を開きし所である。

龜山公園は、大堰川の北岸一帯の地、凡そ三萬坪餘。明治四十四年開いて公園とした。高きに登りて遠望すべく、脚下碧潭を湛へて風光眞に賞すべきである。園内に角倉了以の銅像がある。

大悲閣には(渡月橋より川上七町位北)了以の像を安置し林羅山撰文の碑がある。

## 二尊院 (天台宗) 嵐山電車「嵐山」停留所より北三町

承和八年慈覺大師の創建と稱ふ。釋迦、阿彌陀二尊を安置せるによつてこの名がある。境内後方の山を小倉山といひ、古來、和歌の名所として著はれてゐる。寺域中に、時雨亭(藤原定家の山莊と傳ふ)並に伊藤仁齋一家及角倉了以父子の墓がある。

## 松尾神社 (官幣大社) 嵐山渡月橋を渡り南約十五町

大山祇命、市杵島姬命を祀る。文武天皇、大寶元年の創立と稱す。民間酒造の神として特に崇拜する。

## 「附近」

「梅宮神社」がある。民間安産の神として婦人の參詣者が多い。

「法輪寺」がある。和銅六年、元明帝の時、行基菩薩の開基と傳ふ。毎年四月十二日を祭

日ひらし十三詣りまゐりまいつて男女十三歳さいになれば相率あひあるまて参詣まゐするまの習慣しよんがある。

**桂離宮**

葛野郡下桂村、電車「七條大宮」停留所西方約一里

天正十七年、豊臣秀吉天下に覇を稱するや、勤王の志厚く、且つ人心を收攬せんとして正親町天皇の皇孫朝仁親王の爲めにその御別業として造營せしもの、即ち今の桂離宮である。

第二代智忠親王の御増營せらるゝ時、幕府は内命を奉じ伏見奉行小堀政一をして造進せしめた。政一は即ち小堀遠州で、書院、林泉、悉くその考案に成り、精美を極めてゐる。明治十六年九月改めて離宮りきゆうとなつた。

**高尾神護寺** (真言宗)

葛野郡梅ヶ畑村

初め和氣清麿が河内に創建せし神願寺を、天長元年、この地に移し、改めて神護寺しんごじと稱し

た。秋季満山の楓葉は紅雲空を掩ふの觀がある。

「大師堂」、納涼房なすりぼうも稱し、弘法大師の住房であつたといふ。

「鐘」貞觀十七年の鑄造で世に三絶の鐘かねといひ、その銘文を以て著はれてゐる。橘廣相は

序、菅原是善は銘を撰し、藤原敏行は書した。

「和氣清麿墓」、鐘樓の後方三町許りの地點にある。

「附近」

横尾山西明寺及梅尾山高山寺、高尾の附近に在る。世に併せて三尾みやと稱し、共に紅葉を以て著名である。

**愛宕山** 葛野郡嵯峨村

海拔九二四米、北方丹波國北桑田郡に跨る。比叡山より高きこゝ二百五十尺、京都附近

第一の高峰である。櫻花に富む。  
愛宕神社は山頂にある。伊弉册命外四神を祀る。

### 第七章 洛南の部

東

寺 (真言宗總本山) 市電「大宮七條」停留所南八町

桓武天皇、延暦十五年、平安城南門(即ち羅城門)の東西に二寺を建立し、左右兩京の鎮護をなし給ひ、東寺は空海(弘法大師)に、西寺は守敏僧都に賜はつた。西寺は今僅かに一小堂を残すのみである。東寺は歴代朝廷の崇敬厚く、殿堂亦偉觀を極め、實に洛南第一の伽藍である。創立時代よりの佛像、繪畫、文書を多く藏するにより亦天下に名がある。

「建築」

金堂、慶長年中、豊臣秀頼の建立。本尊藥師如來。  
講堂、慶長年中、秀吉夫人高臺院の建立にかゝる。堂内に本尊大日如來、及び五大尊四天

王の像を安置してある。

五重塔、寛永十八年、徳川家光の建立。高さ三十間餘、我國最高の塔。

校倉、池中にある。鎌倉初期、文覺上人の建立。

慶賀門、開けず門、蓮華門。文覺上人の建立。

南大門、三十三間堂の西門であつたが、明治二十八年移築した。

北大門、八足門ともいひ、後圓融帝の永徳二年上棟した。

『附近』

六孫王神社（郷社） 東寺の東北

六孫王源 經基を祀る。もこ經基の邸址で死後此に葬つたといふ。

羅城門址 東寺の西方三町餘

平安城の南大門で都城の門である。今人家の裏手泥溝の側に標石を立ててある。

### 泉涌寺 市電「大和大路」停留所の東十五町

眞言宗の大本寺。古は眞言、天台、禪、律四宗兼學の道場たりし所である。勅願寺として皇室の御尊崇厚きのみならず、中世以後歴代天皇、皇后、皇族の御陵所をこの寺の後山に奠められしより泉涌寺陵と稱して甚だ顯はるゝに至つた。

寺後の山中に御陵多く、四條天皇以後歴代十六帝陵がある。

孝明天皇及び英照皇太后の御陵も亦こゝにある。

### 東福寺（臨濟宗本山） 京阪電車「東福寺」停留所東二町

九條道家これを創立し、建長七年工成る。當時京都五山の第四位列にあつた。寺名は奈良の東大、興福二大寺に因みて付けたのである。明治十五年の失火に堂宇多く焼失し、往時

の盛観を止めない。境内に楓樹多く秋は通天橋の邊一帶の溪谷紅葉美觀を呈する。  
山門、選佛場、勅使門、鐘樓等特別保護建造物である。

當寺は、明治元年鳥羽伏見の戰に官軍の根據地となり、伏見街道進撃の出陣所であつた。因つて山門の傍に長州藩戦死者の碑が在り、又即宗院に薩藩戦死者の墓が在る。

稻荷神社 (官幣大社)

京阪電車「稻荷」停留所東一町。市電「稻荷」停留所前

倉稻魂神、外二神を祀る。元明天皇、和銅四年、秦公伊侶具が始めて祀る所で稻荷山頂に鎮座してあつたが、嵯峨天皇の時、弘法大師が三山の籠に勸請し社を建てて稻荷三號した。後花園天皇の永享十年足利義教が今の地に遷座した。爾來、社頭の信仰益々盛である。境内總坪數十一萬六千餘坪。

伏見桃山御陵

京阪電車「伏見桃山」停留所より乗合自動車あり。

伏見桃山御陵は明治天皇を葬り奉る。東方一段低き所の東陵は、昭憲皇太后を葬り奉る。

「陵形」

上圓下方墳ニ稱する形式で、上部は三段よりなり、恰も鏡餅を重ねたるが如く、蓋ふに小磔を以てし、下方亦三段の方形より成り、自然石を以て築いてある。

「御陵地沿革」

この地は文祿三年の頃、秀吉が諸侯に課して築城せし伏見城跡で、明治天皇御陵の地は、古の伏見城の一部に當り、本丸、西の丸、松の丸、名古屋丸、天主閣、石田丸、紅雪堀、御船入、學問所等の遺跡歴然として存してゐる。秀吉の居城させしもので、規模壯大を極めてゐた。慶長元年七月一日震災に罹りしも同年修築され、その年秀吉明使を本城に延見したが、三年八月遂に此に薨じた。



同四年、嗣子秀頼、大阪城に移るに及び、家康ここに在つて天下の政を執つたが、大阪  
關東方の軋轢起り、ついで家康の東下となり、關ヶ原役前、石田三成等攻めてこれを  
陥れた。後、修理なり、爾來松平秀康、松平定勝等の居城となつたが、元和六年、幕府  
命じて本城を毀たしめ、遂に廢城となつた。築城より此に至るまで三十年である。  
『附近御陵』

桓武天皇陵

桃山御陵道北方四町位の地にある

崇光、光明兩帝陵

桃山御陵驛の南方二町

仁明天皇陵

伏見騎兵隊の東方

深草十二帝陵

仁明帝陵の西北に在る

乃木神社

桃山御陵道の中程にあり

乃木希典を祀る。村野山人の建つる所である。

黄蘗山萬福寺

京阪電車「黄蘗」停留所東二町

黄蘗宗本山。萬治二年、明の歸化僧隱元、江戸幕府(家綱)よりこの地を賜はつて建立開宗  
せしが、實に我國に於けるこの派最初の寺院である。爾來寺運愈々昂り、同時に幕府以下  
諸侯士民の歸依するもの多かつた。

『隱元傳』

隱元諱は隆琦、支那福建省福州の人、承應三年來朝した、時に年六十三、長崎興福寺及崇  
福寺に法を説き、後、攝津富田の普門寺に居ること四年。尋で江戸に出で、家綱將軍に  
優遇され、地を宇治に賜ひ伽藍を造營した。即ち福州の黄蘗に擬し、黄蘗山萬福寺と號し  
た。かくて黄蘗山にあること凡そ十五年、寛文十三年四月を以て寂す。年八十二。來朝後、

實に二十年である。墓は寺内開山堂の傍にある。その後、當時には歴代支那僧が來住し、一山内の言語風俗殆んど皆支那式で、足一度山門に入れば、身異國にあるの思あつたといふ。

山門を出れば日本で茶摘歌 (田上菊會)

天明以來、支那僧の渡來は止んだが猶ほ山内に支那趣味の横溢せるを見る。

### 平等院 (淨土宗)

京阪電車「宇治」停留所南六町

永承七年、藤原賴通(道長の長子)の別莊を改めて寺に爲し、もので、開祖は三井寺の僧明尊僧正である。寺はその後屢々兵燹にかゝり、往時の規模の大半を失つたが、本堂及釣殿等當時の遺構を存し、藤原時代藝術の精華を稱せられてゐる。

### 「建築」

堂宇、鳳凰堂は、藤原時代代表の模範建築物である。全形鳳凰の形をなし、本堂(中央方五間)、翼廊(左右各七間)、更に前折三間、尾廊(後方十間)の各部均齊の配置をなし、又本殿の屋上左右に黄銅製の雌雄の鳳凰を載せてある。

堂前の石燈籠は平等院形を稱し、形頗る奇古にして注目すべきものである。

内に安置せる阿彌陀佛は定朝作で、一代の傑作を稱せられる。鐘樓、本堂の南にある。日本三鐘の一で印度製を傳ふ。(三鐘とは、神護寺の鐘はその銘に於て、三井寺の鐘はその音に於て、平等院のものはその形に於て、)

### 「墳墓」

源頼政墓 最勝院境内にある

### 宇治川及其附近

宇治川は、近江琵琶湖に源を發し、南流瀬田石山を過ぎ、宇治郡笠取村に至りて西北に轉じ、宇治町を貫く。

この川は京師南方の要害地で、京都防守軍の最後の戦線ともなる地であるから源平の役承久の亂、南北朝當時の軍は、常にこゝに戦つた。殊に、橋小島崎は、宇治橋の北二町の處で、元暦元年の戦に、梶原景季、佐々木高綱の先陣を争つた處であるといふ。

宇治橋は、孝徳天皇の大化二年、南部元興寺の僧道登、道昭、勅を奉じ始めて橋を架した。長さ八十三間、その後、兵亂又は洪水の爲め屢々墜落し、又屢々架せられた。天正六年、信長改造したが、秀吉工事奉行を命ぜられ、大和三輪山の松檜材を用ゐたといふ。橋の欄干には唐銅の擬寶珠二十二基を用ゐる古雅愛すべき構造である。

### 橋寺の斷碑

大化二年、宇治橋創設の記念碑でその上半部は當時の古碑その儘であるといふ。實に千有餘年前の遺物として本邦最古の名碑である。

### 興聖寺

京阪電車「宇治」停留所南五町

本寺は佛徳山と號し、本朝最初の曹洞禪宗を開きし道場である。

天福元年、弘誓院、正覺禪尼深草極樂寺の舊趾に就て、新に伽藍を建設し、本尊釋迦佛を安置し、道元を請うて開祖とした。

### 宇治神社 (府社)

興聖寺北二町

菟道稚郎子命を祀る。上下二宮がある。共に藤原時代の造營で、下宮の本殿は上宮の本殿、拜殿及春日社と共に府下最古の建築物として特別保護建造物である。

### 石清水八幡宮 (官幣大社)

京阪電車「八幡」より山上社殿迄約十五町

應神天皇、神功皇后、及比咩大神を奉祀す。

清和天皇、貞觀元年、僧行教の奏請によつて宇佐八幡を勧請せしものである。爾來武神として朝廷の尊崇厚く、歴朝これに幣を奉らる。

この地元來男山の頂にある。山は甚だ高からざるも京攝の諸山に對し、淀、木津、宇治、桂の諸流を控へ、天王山に相對す。又、要害の地である。これを以て屢々戰場たりし事があつた。特に南朝の時こゝに陣して雌雄を決せし事一再でない。以後、毎度、戰塵の中樞となり、延いて社殿の兵火に罹りしこゝが屢々である。現今の社殿は頗る壯嚴であつて尊信愈々昂く、古今會て衰へた事がない。

### 天王山 東海道線「山崎」驛の北

山城の西南端、攝津の國境に聳えてゐる。淀川を挾んで東方男山に相對峙し、要衝に當る。

それで古來屢々戰時爭奪の地點になつた。元弘建武の頃、赤松一族は義旗を揚げしこゝがあり、後、天正十年、秀吉光秀山崎役の古戰場として有名である。元治元年、眞木和泉等の諸士、此處に於て會桑二藩の兵と戦ひ、衆寡敵せずして自殺せしは人の知る所である。『招魂碑』、山頂に眞木和泉等十七名の殉難の碑がある。

### 寶積寺 (眞言宗)

山の中腹にある。聖武帝の勅願で行基の開基にかゝる。中古頗る盛であつたが今は衰へ、當時の繪旨文書等を存してその面影を止めてゐる。

### 楠公父子訣別の遺跡 山崎驛の南方五町

世に傳ふる楠公父子訣別の櫻井驛趾はこの地であるといふ。有志相謀りて石碑を建てた。碑字は乃木希典の筆である。

長岡都址

東海道線「向日町」驛南十町

桓武天皇奈良より遷都ありしとき、此處に十年間在し、それより平安京に都を奠め給ひし中間の宮城遺址である。古來土地の字を大極殿といふ。有志謀りて大極殿址の碑を立てた。

『附近』

粟生の光明寺（淨土宗）

大原野神社（官幣中社）

花の寺（天台宗）

淳和天皇陵 花の寺西北十五町位

善峯寺（天台宗）

笠置山

相樂郡笠置村

海拔二八九米、關西線笠置驛の東南に聳えてゐる。麓より八町で頂上に達するこゝが出来る。元弘元年八月二十九日、後醍醐帝笠置に行幸せられ、北條氏の軍の圍む所となり、終に翌月二十九日賊の爲めに拘へさせられ給うた。山中の名所としては、

笠置寺、

椿本殿、

三巨石、（一薬師石、文殊石、彌勒石）

兩大石、（金剛界石、胎藏界石）

皇居址、うかりける身を秋風に誘はれて思はぬ山の紅葉をぞ見る。（後醍醐天皇）

記念碑、

### 第八章 近江、大津方面の部

#### 琵琶湖

京津電車「大津終點」下車

#### 廣表

東西 五里二十町餘 (幅の最大の部分にして最狭部は十八町)  
南北 十六里九町餘

周圍 六十里  
面積 四十四方里

#### 深度

三百十八尺 (最深の部なり竹生島の西方)

#### 島嶼

沖の島 周圍一里十五町  
竹生島 同 十八町  
多景島 同 五町  
白石島 大小數箇の岩塊がある。

#### 瀬田唐橋 (近江八景の一)

湖水ニ宇治川ニの境界地點に架してある。

#### 粟津

石山、膳所間の松原で、木曾義仲の古戰場である。

#### 三井寺 (園城寺、天台宗寺門派本山) 大津市

弘文天皇の皇子與多王が、御父帝御追弔の爲に創立せられたものといふ。その後、智證大師叡山より下つて本寺を再興した。

現今の建築物は、慶長年中、豊臣氏の造營に成るものが最も多い。觀音堂は、境内南方の高所にある。西國十四番の札所で、展望の美しいふべからざるものがある。

#### 石山寺 (眞言宗) 大津より電車の便あり

孝謙帝の時、良辨僧正の開基を傳ふ。本堂、本尊如意輪觀音、高さ一丈六尺。承暦二年の建立で慶長年中、秀頼が増築した。紫式部が源氏物語を作りし處をいつて名高い。

東大門、建久年中、源頼朝の建立。仁王は運慶、洪慶の作といふ。鐘樓、建久年中の建立。

月見亭、保元年中、後白河法皇の時の創立といふ。斷崖に臨み眺望によろしく、石山の秋月は近江八景の一である。

竹生島 湖の北端に近し。天津より湖上十餘里、汽船で約四時間を要す。島中に寶嚴寺及都久夫須磨神社、辨天堂等がある。

### 第九章 奈良の部

#### 奈良の沿革

奈良の都は、開化天皇一度都をこの地に定め給うてより天明天皇和銅二年以來、桓武帝延暦十三年に至る七世八十有餘年の舊都で、上代美術の淵藪地である。和銅時代、即ち古の奈良は西方に當り、今の市街地は古都の外部に當る。

#### 三條通

驛より少しく北に進めば東西に通ずる大路がある。これ古都の三條通である。

『開化天皇陵』

三條通の北側にある。兆域周圍二百六十間。

## 『猿澤池』

周囲八十六間、柳絮四邊をめぐり、風流極まりなし。池邊に宋女の祠がある。

## 興福寺（法相宗）

和銅三年、藤原不比等建立。爾來、藤原氏の氏寺として南都北嶺に對稱したが、治承四年兵燹に焼失せしより寺勢が振はない。

## 『建築』

東金堂、應永二十三年の建立。本尊は藥師如來。

北圓堂、寛治六年の建立。本尊は釋迦坐像。寶珠形八角造、藤原時代の建築であるといふ。

五重塔、應永二十三年の建立。

『八重櫻』、師範學校門内にある。

## 春日神社（官幣大社）

三笠山の麓にある。祭神は武甕槌命、經津主命、天兒屋根命、比賣神の四神。和銅二年、藤原不比等の創立せるもので、爾來歴世藤原氏の祖神として崇敬される。

## 『建築』

本殿四棟に分れ、各春日造に稱する様式である。慶長十七年の建立。

## 『石燈籠』

所謂、春日燈籠であつて參道の兩側に充滿林立する、その數千七百餘あるといふ。就中、保延三年、藤原忠通の寄進したる傳ふるのが最古のものであるといふ。

## 『境内』

面積は三十萬坪餘あるといふ。古松老杉鬱茂せる神々しき極みである。



『附近名勝』

三笠山 春日神社後方の一丘陵で阿部仲麿の「天の原ふりさけ見れば云々の歌を以て著はれてゐる。

若草山 春日神社北方の一峯、全山芝草で樹木は稀である。毎年二月山焼の儀があつて一種の壯觀である。

手向山八幡宮 天平勝寶年中、聖武帝の勅願により宇佐八幡を勧請せしもの、今の社殿は元祿四年の再建である。菅公の「此度は幣も取りあへず手向山紅葉の錦神のまに／＼」の詠を以て有名である。

東大寺（華嚴宗）

本尊は有名なる奈良大佛。大佛殿と稱す。天平勝寶年間に創建せしものであるが、その後

兩度の火災にかゝり、現今のは、寶永五年に建立せしものである。本尊大佛は、聖武天皇の御創造後三回の修理を経、現今のものは、大部分、元祿年間の改鑄に成るものである。

高さ五丈三尺五寸（九間）	
面長	一丈六尺
目長	三尺九寸
耳長	八尺五寸
肩長	二丈八尺

『二月堂』、法華堂といひ、聖武天皇天平五年の建立。本堂は東大寺建築中最古のものである。

本尊は不空羼索觀音である。丈一丈二尺、良辨の作で希代の逸品である。

「南大門」、鎌倉時代の建立。仁王尊は丈二丈六尺五寸、運慶、湛慶の合作である。  
 「鐘樓」、鎌倉時代の建立。構造奇異にして他に類を見ない。  
 「銅製燈籠」、大佛殿前八角形のもの一基、天平年間（750-780）の鑄造である。  
 「破産門」、天平中の創建、鎌倉時代の修補。

### 電車、汽車、乗車の場所

- 一 伏見桃山、宇治、方面に行くには三條大橋、四條大橋、五條大橋、七條大橋停留所より京阪電車に乗るのが便利である。
- 一 山科、大津方面に行くには、三條大橋停留所より京阪電車に乗るのが便利である。
- 一 嵐山方面に行くには、四條大橋、北野、停留所より嵐山行電車に乗るのが便利である。
- 一 比叡山登山、八瀬、方面に行くには出町柳停留所より電車に乗るのが便利である。
- 一 奈良、向町、山崎、方面に行くには京都驛より汽車に乗るのが便利である。

桃山御陵	泉涌寺	嵐山	等持院	北野神社	東寺	新橋	五條大橋	相國寺	吉田神社	黒谷
二里	二里十一町	二里十五町	二里十二町	一里廿五町	十五町	二十三町	十五町	一里八町	一里二十町	一里十六町

東福寺	高尾寺	妙心寺	平野神社	二條宮	六角堂	四條大橋	下加茂	御所	眞如堂
二里十町	三里五町	二里	一里卅一町	三里十四町	二里十一町	二里十一町	一里廿六町	一里三町	一里十五町

稻荷寺	大徳寺	御室	金閣寺	建勳神社	京都府	三條大橋	上加茂	師範學校	帝國大學
三里十町	二里二町	二里九町	二里	二里二町	三里十五町	二里十七町	二里十六町	一里廿五町	一里十八町

永觀堂	勸修寺	青蓮院	東大寺	西大寺	豐國廟	京都博物館	西本願寺
一里十九町	三里十四町	一里二町	三里十五町	二里十三町	十町	十町	十町

里程表

(京都驛を起點とす)

若王子神社	イシクライン	平安神宮	圓山公園	清水寺	阿彌陀ヶ峯	豐國神社	東本願寺
一里廿二町	一里十二町	一里十二町	一里	三里十一町	十町	十町	四町

銀閣寺	南禅寺	武徳殿	知恩院	高臺寺	大佛	妙法院	三十三間堂
一里卅四町	一里十四町	一里十三町	一里一町	二里九町	十町	十町	十町

大正十五年七月七日印刷  
大正十五年七月十日發行

定價金四拾錢

編輯人

京都府七條通西洞院下東入  
伊地知正治

印刷人

京都府新町通北小路上九  
堀井清

印刷所

京都府木津屋橋通新町西入  
弘文社印刷所

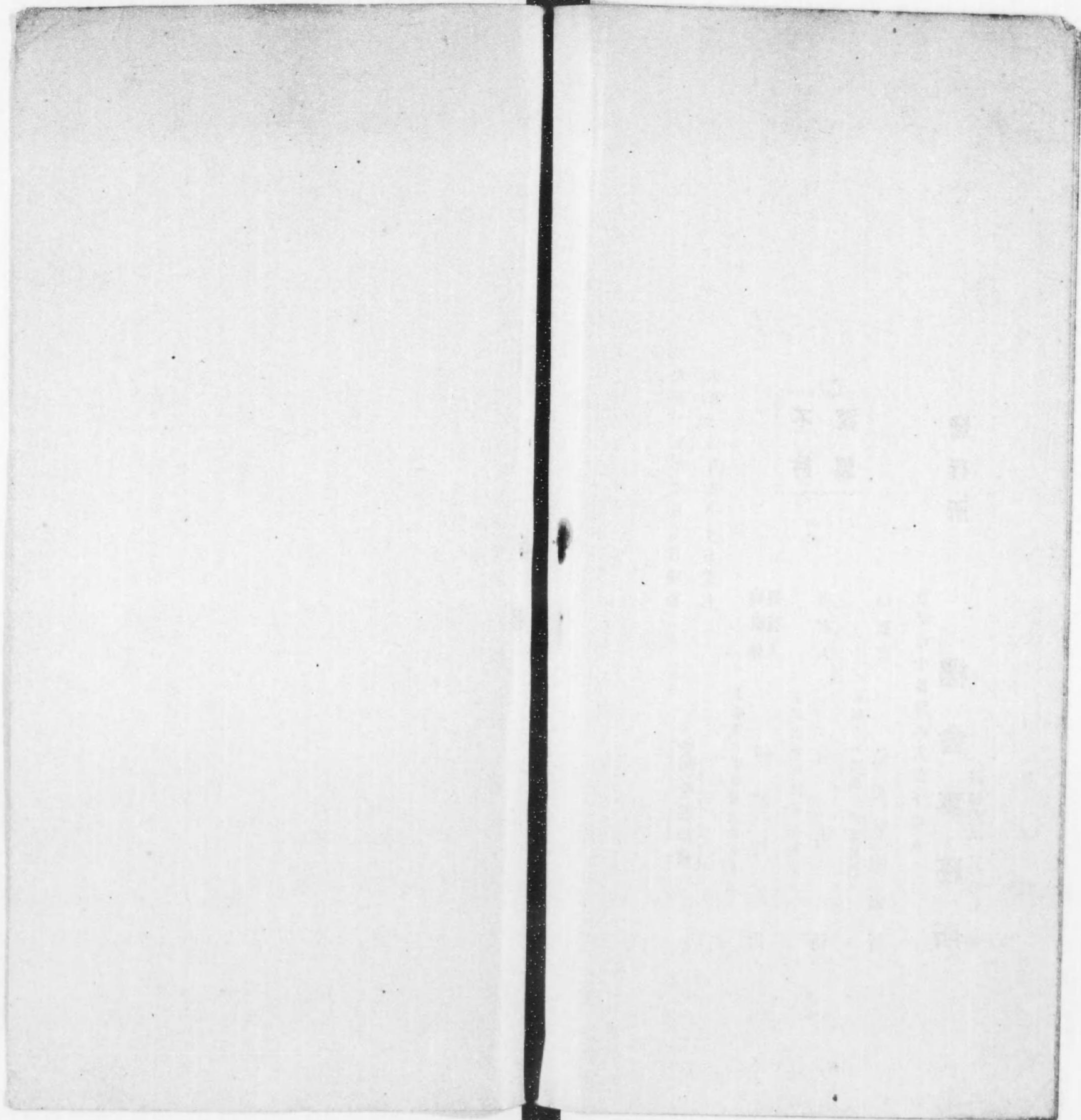
京都府七條通西洞院下東入

發行所

櫛會事務所

攝替穴阪二〇〇七〇番

不許  
複製



終

